平成３０年版

消防年報

伊勢原市公式イメージキャラクター
クルリン

伊勢原市消防本部

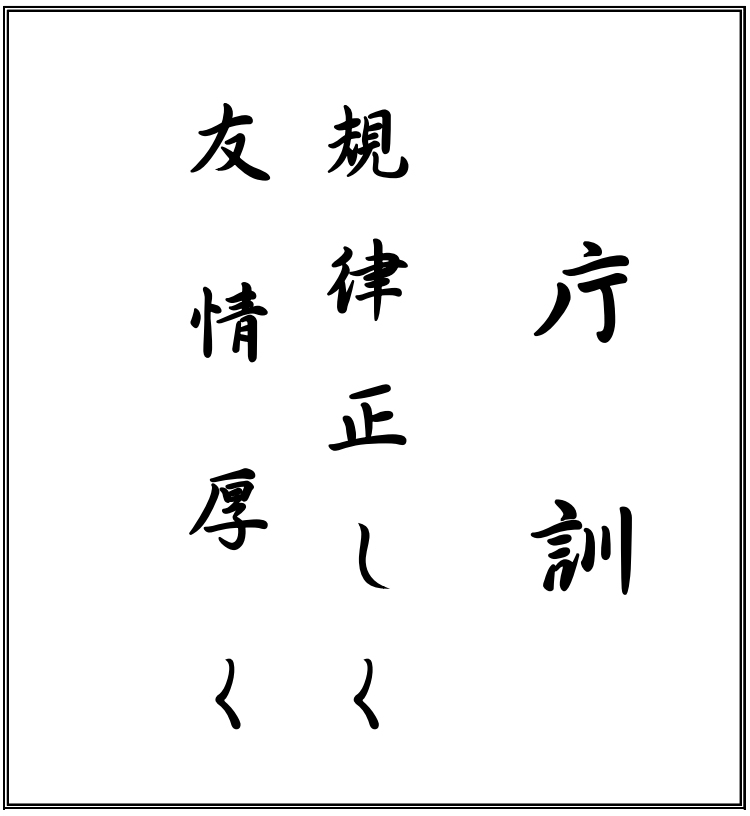
なかなか
いいなか
いせはら

はしがき

この年報は、平成３０年４月１日現在における伊勢原市消防の諸般の事項を集録して現勢を明らかにし、消防の実態を紹介するとともに、将来の参考に資するために編集したものです。

平成３０年８月

伊勢原市消防本部



市　章

昭和３２年９月１日に制定されました。

「イセ」の文字を図案化したもので、伊勢原を象徴し、円は市政の円満を意味し、「 ）（ 」は市政の限りない発展を表わしています。

市の木・市の花・市の鳥

昭和４７年３月１日に制定されました。

緑の伊勢原にふさわしい美しい緑の環境をつくり、市民の日常生活にゆとりと豊かさを与えるとともに、本市のシンボルとして歴史的存在意義を象徴し、かつ市民性を表現する「市の木、市の花、市の鳥」を制定し、もって愛樹、愛花、愛鳥思想の普及啓発をはかる趣旨のもとにつくられました。

市の木　しい

市の鳥　やまどり

市の花　ききょう

目　次

はしがき

目　　次

伊勢原市の概要 ―― 1

伊勢原市消防のあゆみ ―― 2～13

歴代消防長・消防署長及び叙勲受章者 ―― 14

１　消防情勢

消防予算、市の一般会計予算と消防費との比較 ―― 15

消防費前年度比較、消防費と人口との比較 ―― 15

市民と消防、常備消防の現勢、消防庁舎の現況 ―― 16

消防機構図 ―― 17

消防本部・署の事務分掌 ―― 18～21

消防職員の勤務内容、消防職員居住地状況、消防職員出動状況 ―― 22

消防職員階級別年齢調 ―― 23

消防職員階級別勤続年数調 ―― 24

消防職員年度別推移・消防職員研修実施状況 ―― 25

消防職員の免許・特殊技能資格者調 ―― 26

消防本部・署車両及び小型動力ポンプ現有状況 ―― 27

主な機械器具保有状況、地区別消防水利 ―― 28

消防施設配置図 ―― 29

２　火災予防

防火対象物の状況 ―― 30

建築物同意事務取扱状況 ―― 31

火災予防査察状況 ―― 32

危険物施設査察状況、危険物施設状況 ―― 33

中高層建物状況、防火教育等実施状況 ―― 34

市コミュニティ防災センター利用状況 ―― 34

主な届出状況、危険物設置関係申請処理状況 ―― 35

３　火災と気象

火災概要、火災件数推移 ―― 36

原因別火災発生件数 ―― 37

地区別火災件数、時間別火災件数 ―― 37

月別火災件数、隣接都市との火災件数比較、消防相互応援状況 ―― 38

目　次

気象状況、降雨量前年度との比較 ―― 39
年間風向割合、気象観測器具現有数、天候月別日数 ―― 40
通信機器等配置表 ―― 41
１１９番受信状況、加入電話病院照会件数 ―― 42
携帯電話等からの緊急通報件数 ―― 42

4　救急と救助
救急業務の推移、搬送先別搬送人員、時間別救急出動件数 ―― 43
事故種別、年齢区分別、傷病程度別、搬送人員調 ―― 44
主要道路別交通事故救急件数、救急患者居住地調 ―― 45
覚知別救急出動件数、地区別救急件数 ―― 45
救急支援（ＰＡ）出動件数、熱中症件数 ―― 45
応急処置の状況 ―― 46
過去３年間の救助出動件数 ―― 47

5　消　防　団
歴代消防団長、叙勲受章者 ―― 48
消防団の組織、消防団本部・分団別の現況 ―― 49
消防団員階級別年齢調・消防団員階級別勤務年数調 ―― 50
消防団員費用弁償、消防団員報酬額、消防団員出動状況 ―― 51
消防団車両一覧表 ―― 52～53
消防団車庫の現況 ―― 54
神奈川県消防操法大会出場状況一覧表 ―― 55

伊勢原市の概要

□ 位置・地勢・自然

伊勢原市は神奈川県のほぼ中央部、東京から５０km、横浜から４５km、東経１３９度１９分０４秒、北緯３５度２３分５８秒の位置にあります。周囲には北東を厚木市、西を秦野市、南を平塚市に接し、東西９，９８０m、南北７，２８０m、総面積５５．５６㎢となっています。

総面積の約３５％が山林原野によって占められている本市では、起伏のある地形と豊かな緑が自然条件の特徴です。北西は、険しい丹沢山塊の一角をなす大山（標高1,251.7m）を頂点とする丘陵が東南に広がり、平坦部は、浸食作用による谷戸が多く、東部に平野がひらけています。

また、市内には大山山系を源とする鈴川、善波川、日向川、歌川及び渋田川が流れ、灌漑用水として利用されています。

□ 面積、人口、世帯数

平成３０年４月１日現在

面　積	人　口		世　帯　数
５５．５６㎢	１０２，４１６人	男　５１，９３６人	４４，８０９世帯
		女　５０，４８０人	

□ 沿　革

伊勢原の歴史は古く、今からおよそ８千年～１万年前の縄文時代には、すでに人々が生活を営んでいました。その遺跡は、現在、三ノ宮郷土博物館などで見ることができます。

８世紀に仏教の東国普及に伴って、日向薬師や大山寺が創建され、奈良時代に入ると市内を古東海道が通り、笠窪に箕輪駅がおかれました。また、平安時代にかけては、相模国の中央にそびえる大山は、霊峰大山とたたえられ山岳信仰の地として栄えました。

鎌倉時代には、源頼朝の幕府の成立に力のあった岡崎氏、石田氏、糟屋氏などの武家がこの地を治めました。続く、南北朝・室町・戦国時代には、上杉氏が栄え、江戸城の築城で有名な太田道灌は、伊勢原でその生涯を遂げています。

江戸時代、三代将軍家光のころから、伊勢原は大山参りの宿泊地として栄え、そのころ、千手ケ原に伊勢の国から移住した人々の干拓が始まり、伊勢原と呼ばれるようになりました。

明治２２年、町村制が施行され、数々の村が生まれ、さらに昭和２９年、２町４カ村が合併して、伊勢原町が誕生。その後、農業中心の町から徐々に内陸型の工業が栄え、近代都市へと生まれ変わり、昭和４６年３月１日に、県下１５番目の市政を施行しました。

伊勢原市消防のあゆみ

年	月	日	変遷
昭和	29	12	01	・2町4か村により伊勢原町発足
	〃	〃	〃	・伊勢原町消防団設置、6分団52部、定員1,608名
	〃	〃	〃	・初代消防団長 北村駒治氏就任
	31	10	01	・岡崎村の一部が分村合併、分団長以下32名が編入し7分団54部1,640名となる。
	32	01	01	・各分団の人員比例を考え、団員定数1,055名に改正する。
	〃	〃	〃	・初代消防団長 北村駒治氏就任
	〃	12	13	・初代消防団長 北村駒治氏退団
	33	12	14	・二代消防団長 舞出秀雄氏就任
	34	10	07	・伊勢原町東大竹434番地伊勢原町農協精米所より出火 建物398㎡焼失
	〃	12	14	・二代消防団長 舞出秀雄氏退団
	35	12	15	・三代消防団長 鈴木宗太郎氏就任
	36	01	01	・団員定数を834名に改正し、7分団を6分団54部とする。
	〃	06	30	・伊勢原町池端92番地精麦工場より出火 焼失面積2,750㎡
	37	12	05	・伊勢原町日向1,610番地で4棟全焼 焼失面積324㎡
	〃	12	14	・三代消防団長 鈴木宗太氏退団
	〃	12	15	・四代消防団長 山本益治氏就任
	38	04	01	・伊勢原町石田677番地で住宅2棟全焼 焼失面積241㎡
	〃	10	28	・消防審議会初会合を開催し、会長に北村駒治氏、代理者に加藤宗兵衛氏が互選され、石井町長より「伊勢原町消防制度改善問題」について諮問せられ、国の消防力の基準の上に立って、本町の態容、財政力および集落地形などを勘案しての消防制度改善方策の審議が開始された。
	39	12	09	・消防審議会から改善答申書が提出された。
	40	04	01	・消防団長 山本益治氏再任、団員の定数を581名に改正
	〃	08	01	・常備消防職員として消防士2名を採用
	〃	11	01	・消防士1名を採用
	〃	12	28	・消防ポンプ自動車（ニッサンFR40）1台を購入し、総務課消防防災係に配備、第1分団員10名を特命し消防士2名と共に常備部として活動せしめた。
	41	03	25	・消防職員の定数を20名と定めた。
	〃	04	01	・消防士3名を採用
	〃	〃	〃	・伊勢原町消防本部設置
	〃	〃	〃	・初代消防長 横山久男氏、消防課長 萩原三郎氏就任、消防長以下9名となる。
	〃	07	01	・消防士2名を採用
	〃	10	01	・神奈川県消防学校 秋本芳男氏の派遣を受け、向う1年間の創設業務及び教養を担当せしめた。
	〃	11	01	・昼夜二交替勤務開始
	〃	11	23	・超短波無線局を開設
	42	01	22	・大山で山火事34ha焼失
	〃	02	01	・消防運営委員会発足
	〃	〃	〃	・消防士1名採用
	〃	04	01	・消防団長 山本益治氏再任
	〃	〃	〃	・伊勢原町消防署を設置。県派遣職員 秋本芳男氏を初代消防署長に任命し、町長部局より事務吏員が1名出向する。
	〃	〃	〃	・消防士5名を採用し、消防長以下19名となる。
	〃	06	01	・消防士2名を採用
	〃	07	04	・日本消防協会より救急車の寄贈を受け、救急業務を開始する。
	〃	08	31	・初代消防長 横山久男氏退職
	〃	09	01	・二代消防長 内海弁次氏就任
	〃	〃	〃	・消防署長 秋本芳男氏県へ帰任につき、二代消防署長 萩原三郎氏就任 消防長以下20名となる。
	42	10	01	・消防職員定数35名に改正

伊勢原市消防のあゆみ

年	月	日		変　　遷
昭和	〃	12	01	・消防士1名を採用
	〃	12	05	・水槽付消防ポンプ自動車（貯水量2t）1台購入し、消防署の主力ポンプとした。
	43	01	01	・消防士2名を採用
	〃	04	01	・消防士5名を採用、消防長以下28名となる。
	〃	06	01	・町長部局より事務吏員1名出向
	〃	06	05	・消防庁舎落成、敷地面積1,927㎡、建物延面積870㎡
	〃	〃	〃	・伊勢原町消防本部・署・団本部を田中839番地に設置
	〃	03	31	・四代消防団長 山本益治氏退団
	44	04	01	・五代消防団長 高崎元治氏就任。消防団組織の改善と機動化に着手する。
	〃	〃	〃	・消防士2名を採用、消防長以下33名となる。
	45	04	01	・消防士2名を採用
	〃	09	08	・日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車が寄贈される。
	46	02	01	・消防士1名を採用
	〃	03	01	・市制施行により、伊勢原市消防本部・消防署・消防団となる。
	〃	04	01	・消防団長 高崎元治氏再任
	〃	〃	〃	・消防団組織と定員を改正し、6分団30部423名となる。
	〃	〃	〃	・市長部局より事務吏員1名出向、消防士2名採用
	〃	11	03	・元消防団長 北村駒治氏　叙勲 勲五等瑞宝章を賜る。
	〃	12	10	・消防士1名を採用
	47	04	01	・市長部局より事務吏員1名出向、消防士7名採用
	〃	04	29	・元消防副団長 陶山悌造氏　叙勲 勲六等瑞宝章を賜る
	〃	11	20	・救急車を購入し消防署に配備
	48	01	01	・消防士2名を採用
	〃	03	31	・二代消防長 内海弁次氏退職
	〃	04	01	・三代消防長事務取扱 横溝利和氏就任（助役兼務）
	〃	〃	〃	・消防団長 高崎元治氏再任
	〃	〃	〃	・消防士6名を採用、消防長以下49名となる。
	〃	11	22	・第1分団第1部に水槽付消防ポンプ自動車を配備
	49	01	01	・消防士2名を採用、消防長以下51名となる。
	〃	04	01	・消防士2名を採用
	〃	08	22	・はしご付消防ポンプ自動車（32m）と消防ポンプ自動車（ニッサンBD-Ⅰ型）を購入し、都市化に備え消防力の充実を図った。
	〃	09	01	・消防署組織改正により係制となる。甲部乙部隊を警備第1係、第2係に改める。
	〃	〃	〃	・特科分隊発足
	〃	12	03	・消防士1名を採用、消防長以下54名となる。
	50	04	01	・四代消防長 萩原三郎氏就任
	〃	〃	〃	・三代消防署長 亀井博氏就任
	〃	〃	〃	・消防士2名を採用、消防長以下55名となる。
	〃	07	01	・市長部局より事務吏員1名出向、消防長以下56名となる。
	〃	08	20	・日本船舶振興会より小型動力ポンプ付積載車を寄贈される。
	51	03	03	・財団法人日本消防協会より表彰旗を受賞
	〃	03	20	・日本自動車工業会より救急自動車を寄贈される。
	〃	03	31	・五代消防団長 高崎元治氏退団
	〃	04	01	・六代消防団長 小泉留吉氏就任
	51	04	01	・事務吏員1名市長部局へ帰任
	〃	〃	〃	・消防士1名を採用、消防長以下56名となる。
	51	04	01	・テレホンサービスとカードダイヤルにより市民サービス及び通信の迅速化を図る。
	〃	11	03	・元消防団長 舞出秀雄氏　叙勲 勲六等瑞宝章を賜る。

伊勢原市消防のあゆみ

年	月	日	変遷
昭和	52	04 01	・消防士2名を採用、消防長以下58名となる。消防職員定数58名に改正
	〃	04 29	・元消防副団長 宮崎忠夫氏　叙勲 勲七等青色桐葉章を賜る。
	〃	〃 〃	・元消防副団長 青木　善氏　叙勲 勲七等青色桐葉章を賜る。
	〃	08	・第6回消防救助技術関東地区指導会 ロープ登はんの部出場
	〃	11 10	・小型動力ポンプ付積載車2台の購入配置をもって消防団機動化完了
	〃	12 26	・救助工作車を購入し、中高層建築物等に対する救助体制の強化を図る。
	53	04 01	・市長部局より事務吏員1名出向、消防士2名を採用。消防職員定数を60名に改正
	〃	08	・第7回消防救助技術関東地区指導会 ロープ登はんの部出場
	〃	11 30	・幹部仮眠室・厨房・増改築（27㎡）
	〃	12 22	・指揮車と査察広報車を購入し、消防指揮並びに予防消防の充実を図った。
	54	01 01	・市長部局より事務吏員1名出向
	〃	04 01	・事務吏員1名市長部局へ帰任
	〃	03 31	・六代消防団長 小泉留吉氏退団
	〃	〃 〃	・七代消防団長 中村稔氏就任
	〃	〃 〃	・消防団組織を改正し、6分団28部とした。
	〃	〃 〃	・市長部局より事務吏員2名出向、消防士2名を採用。消防職員定数を62名に改正
	55	03 14	・日本損害保険協会より救急自動車が寄贈される。
	〃	03 22	・消防団出動無線サイレン吹鳴装置を設置し、消防団員出動の適正化を図った。
	〃	08	・第9回消防救助技術関東地区指導会 ロープ応用登はんの部出場
	〃	09 03	・日本損害保険協会より化学消防ポンプ自動車が寄贈される。
	〃	11 28	・第6分団第4部の消防ポンプ自動車を更新
	〃	12 17	・水そう付消防ポンプ自動車を購入し、初期消火体制の強化充実を図った。
	56	04 01	・消防士2名を採用、職員定数を75名に改正
	〃	06 17	・消防団員の福利厚生面の充実を図り、初めての健康診断を実施
	〃	06 20	・可搬式泡放水砲を購入し、特殊可燃物消火体制の整備を図った。
	〃	09 01	・消防士5名を採用、消防長以下67名となる。
	57	01 19	・消防署仮称第1号分署に、CD-Ⅰ型消防ポンプ自動車を配置
	〃	02 01	・消防署長 亀井博氏市長部局へ帰任
	〃	〃 〃	・四代消防署長 喜多野昌男氏就任
	〃	03 18	・消防署仮称第1号分署にB3級台車付小型動力ポンプを配置
	〃	04 01	・事務吏員2名市長部局へ帰任
	〃	〃 〃	・八代消防団長 石田昭治氏就任
	〃	〃 〃	・消防署南分署・コミュニティ防災センターを開設
	〃	〃 〃	・消防署の組織改正により課制とし、警備第1係・第2係を警防1課・2課に改める。
	〃	〃 〃	・特科分隊を救助分隊に改め、専任救助隊員として編成する。
	〃	〃 〃	・市長部局より事務吏員2名出向、消防士6名を採用、消防長以下72名となる。
	〃	〃 〃	・消防団組織と定員を改正し、6分団27部335名となる。
	〃	05 10	・日産テクニカルセンターより救急自動車の寄贈を受ける。
	57	12 21	・消防署南分署に訓練塔を設置し、訓練施設の充実を図った。
	58	05 01	・事務吏員1名市長部局へ帰任
	〃	〃 〃	・市長部局より事務吏員3名出向、消防長以下75名となる。
	〃	〃 〃	・消防本部組織改正により警防係を防災係に改める。
	〃	11 03	・元消防副団長 杉崎利之氏　叙勲 勲七等青色桐葉章を賜る。
	〃	12 23	・防災指令車を購入し、火災等の指揮本部の明確化を図った。
	59	04 01	・事務吏員1名市長部局へ帰任、消防吏員1名を市長部局へ異動
	〃	〃 〃	・消防団長 石田昭治氏再任
	〃	〃 〃	・消防士2名を採用、消防長以下74名となる。
	〃	04 29	・元消防団長 山本益治氏　叙勲 勲六等瑞宝章を賜る。

伊勢原市消防のあゆみ

年	月	日		変　　遷
昭和	〃	10	12	・消防本部へ防災資機材運搬車を配備
	〃	10	30	・第2分団第1部の消防ポンプ自動車を更新
	〃	11	13	・本署の救急自動車を更新
	60	03	15	・消防救急活動の効率化を図るべく、消防・救急総合指令装置を設置
	〃	03	30	・消防庁舎（増築）落成　建物延面積943.66㎡
	〃	04	01	・事務吏員2名市長部局へ帰任
	〃	〃	〃	・消防士4名を採用、消防長以下78名となる。消防職員定数を83名に改正
	〃	07		・第14回消防救助技術関東地区指導会 高所人命救助の部出場
	〃	09	30	・四代消防長 萩原三郎氏退職
	〃	10	01	・五代消防長事務取扱 近藤英男氏就任（助役兼務）
	〃	〃	〃	・南分署に救急隊を設置し、救急業務の迅速化を図った。
	〃	〃	〃	・第1分団第5部、第3分団第1部、第4分団第1部の消防ポンプ自動車を更新
	〃	10	18	・中層建物の火災防ぎょ、救助活動用に12mはしご車（愛称キリンさん）を消防署に配備
	〃	10	30	・第5分団第3部の小型動力ポンプ付積載車を更新
	〃	12	24	・給水タンク車（愛称ぞうさん号）を消防署に配備
	61	03	05	・消防庁長官より竿頭綬を授与される。
	〃	03	31	・八代消防団長 石田昭治氏退団
	〃	04	01	・消防署長 喜多野昌男氏市長部局へ出向
	〃	〃	〃	・六代消防長 中村通雄氏並びに五代消防署長 袖田和由氏就任
	〃	〃	〃	・九代消防団長 鈴木美男氏就任
	〃	06	15	・消防士5名を採用、消防長以下80名となる。
	〃	06	19	・消防本部の査察広報車を更新
	〃	07		・第15回消防救助技術関東地区指導会 高所人命救助・はしご登はんの部出場
	〃	10	13	・第5分団第1部、第6分団第1部の消防ポンプ自動車を更新
	〃	10	16	・第2分団第2部、第3分団第3部の小型動力ポンプ付積載車を更新
	〃	10	23	・消防署の消防ポンプ自動車（CD-Ⅰ型）更新
	62	02	16	・第1分団第2部の消防ポンプ自動車（BS-Ⅰ型）更新
	〃	04	01	・事務吏員2名市長部局へ帰任
	〃	〃	〃	・消防吏員1名市長部局へ出向
	〃	〃	〃	・市長部局より事務吏員2名出向、消防長以下79名となる。
	〃	04	29	・元消防副団長 青柳常久氏　叙勲 勲七等青色桐葉章を賜る。
	〃	07		・第16回消防救助技術関東地区指導会 高所人命救助、ロープブリッジ救出の部出場
	62	09	08	・南分署の救急自動車を更新
	〃	10	19	・第1分団第6部の消防ポンプ自動車（BS-Ⅰ型）更新
	〃	11	27	・第4分団第2部、第6分団第3部の小型動力ポンプ付積載車（B3級）更新
	〃	〃	〃	・第4分団第5部、第5分団第2部の小型動力ポンプ付積載車を更新
	〃	12	10	・消防職員定数103名に改正（昭和63.4.1施行）
	63	04	01	・事務吏員3名市長部局へ帰任
	〃	〃	〃	・消防吏員1名市長部局より帰任
	〃	〃	〃	・消防団長 鈴木美男氏再任
	〃	〃	〃	・市長部局より事務吏員1名出向、消防士3名を採用、消防長以下81名となる。
	〃	11	29	・小型動力ポンプを第2分団第3部及び日向薬師へ配備
平成	01	02	20	・第4分団第3部の小型動力ポンプ付積載車を更新
	〃	03	12	・伊勢原ロータリークラブより査察広報車の寄贈を受ける。
	〃	03	20	・第1分団第1部の水槽付消防ポンプ自動車を更新
	〃	04	01	・事務吏員1名市長部局へ帰任
	〃	〃	〃	・市長部局より事務吏員1名出向、消防士2名を採用、消防長以下83名となる。

伊勢原市消防のあゆみ

年	月	日		変　　遷
平成	〃	11	30	・消防本部の指揮車を指令車と改名し車両を更新
	〃	12	26	・消防署の救助工作車を更新
	02	02	12	・第3分団第5部、第6分団第2部の小型動力ポンプ付積載車（B3級）更新
	〃	03	26	・給水タンク車（愛称ぞうさん2号）を消防署南分署に配備
	〃	03	31	・九代消防団長 鈴木美男氏退団
	〃	04	01	・消防吏員1名市長部局へ出向
	〃	〃	〃	・六代消防署長 濱田和雄氏就任（南分署長兼務）
	〃	〃	〃	・十代消防団長 矢作英保氏就任
	〃	〃	〃	・消防士7名を採用、消防長以下87名となる。
	〃	07		・第19回消防救助技術関東地区指導会 高所人命救助、ほふく救出の部出場
	〃	07	18	・女性防火指導員制度を発足（実員30名）
	〃	08		・第19回全国消防救助技術大会 ほふく救出の部出場（広島市）
	〃	10	01	・消防署南分署へ伊勢原ライオンズクラブより啓発塔の寄贈を受ける。
	〃	12	26	・本署の救急自動車を更新
	03	02	27	・第5分団第5部の小型動力ポンプ付積載車（B3級）更新
	〃	04	01	・事務吏員2名市長部局へ帰任
	〃	〃	〃	・市長部局より事務吏員2名出向、消防士10名を採用、消防長以下96名となる。
	〃	04	10	・日本損害保険協会より化学消防ポンプ自動車が寄贈される。
	〃	10	28	・第1分団第3部の消防ポンプ自動車（BS－Ⅰ型）更新
	〃	11	07	・消防署南分署の救急自動車を更新
	〃	〃	〃	・消防ポンプ自動車（CDⅠ型）、給水タンク車（愛称ぞうさん3号）を購入（消防署西分署へ配置）
	〃	12	20	・第4分団第4部の小型動力ポンプ付積載車（B3級）更新
	04	03	31	・六代消防長 中村通雄氏退職
	〃	04	01	・七代消防長 森屋正義氏就任
	〃	〃	〃	・消防士７名を採用、消防長以下102名となる。
	〃	〃	〃	・消防団長 矢作英保氏再任
	〃	07	22	・消防本部に査察車を配備
	〃	08	20	・防災資機材運搬車を購入（西分署へ配置）
	04	08	27	・消防署西分署開署
	〃	08	30	・消防本部の防災パトロール車を災害対策車と改名し車両を更新
	〃	11	12	・救急救命士誕生（1名）
	〃	12	24	・第3分団第2部、第5分団第4部の小型動力ポンプ付積載車（B3級）更新
	05	03	31	・七代消防長 森屋正義氏退職
	〃	04	01	・八代消防長 横山宗男氏就任
	〃	〃	〃	・消防本部の組織改正により課制へ移行。消防総務課に庶務係・警防係、予防課に予防係・防災係が設置される。
	〃	〃	〃	・消防署の警防1課・2課を警備1課・2課に改める。
	〃	〃	〃	・事務吏員1名市長部局へ帰任
	〃	〃	〃	・市長部局より事務吏員1名出向、消防士6名採用、消防長以下107名となる。
	〃	〃	〃	・消防職員定数を108名に改正
	〃	08	25	・本署の救急自動車を更新
	〃	09	01	・本署救急自動車運用開始
	〃	〃	〃	・西分署に救急自動車を配備し、消防隊兼務で救急業務開始
	〃	12	20	・現場指揮車を購入し、消防署本署に配備
	06	03	22	・消防署南分署の訓練塔増築
	〃	03	31	・十代消防団長 矢作秀保氏退団
	〃	04	01	・消防士5名を採用、消防長以下111名となる。消防職員定数を112名に改正
	〃	〃	〃	・事務吏員1名市長部局へ帰任

伊勢原市消防のあゆみ

年	月	日	変遷
平成	〃	〃	・消防吏員1名市長部局へ出向
	〃	〃	・市長部局より事務吏員1名出向
	〃	〃	・十一代消防団長 磯﨑敬三氏就任
	〃	04	29 ・元消防団長 中村　稔氏　叙勲 勲六等単光旭日章を賜る。
	〃	06	24 ・全国消防長会関東支部、日本救急医学会関東地方会の主催による、第24回救急隊員学術研究会が伊勢原市消防本部が事務局となり1都9県の140消防本部より
	〃	07	・第21回消防救助技術関東地区指導会 ロープブリッジ救出の部出場
	〃	10	07 ・第2分団第3部（大山上地区）に新たに小型動力ポンプ付積載車を配備
	〃	11	14 ・救急救命士誕生（2人目）
	07	01	18 ・1月17日早朝に発生した阪神・淡路大震災の被災地に18日から23日にかけ、倒壊家屋からの人命救助を任務として救助工作車及び現場指揮車各１台と救助隊員10名を派遣した。
	〃	02	22 ・高層ビル火災の消火や救助活動に対応するため、はしご付消防ポンプ自動車(32m)を更新し、40mのはしご付消防自動車を配備
	〃	04	01 ・消防士2名を採用、消防長以下112名となる。
	〃	〃	〃 ・消防吏員1名市長部局へ出向
	〃	〃	〃 ・事務吏員1名市長部局へ帰任
	〃	〃	〃 ・市長部局より事務吏員1名出向
	〃	04	29 ・元消防団長 石田昭治氏　叙勲 勲六等単光旭日章を賜る。
	〃	07	・第24回消防救助技術関東地区指導会 ほふく救出の部出場
	〃	08	・第24回全国消防救助技術大会 ほふく救出の部出場（北九州市）
	〃	10	08 ・消防本部の防災指揮車を連絡車と改名し、車両を更新
	〃	10	13 ・第6分団第4部の消防ポンプ自動車（A2級）更新
	〃	11	03 ・消防本部発足30周年を記念して、旧第二庁舎跡地で消防・防災フェスティバルが開催された。
	07	11	16 ・救急救命士誕生（3人目）
	08	03	31 ・八代消防長 横山宗男氏退職
	〃	〃	〃 ・消防本部発足30周年を記念して、「伊勢原消防三十周年記念誌」を発行
	〃	04	01 ・九代消防長 藤川憲一氏就任
	〃	〃	〃 ・消防士2名を採用、消防長以下114名となる。
	〃	〃	〃 ・事務吏員1名市長部局へ帰任、市長部局より事務吏員1名出向
	〃	〃	〃 ・消防団長 磯﨑敬三氏再任
	〃	10	04 ・消防本部の防災資機材運搬車を更新
	〃	10	29 ・災害時の飲料水確保の一環として、本市で初めて飲料水兼用貯水槽（100t）を伊勢原中学校内に設置する。
	〃	12	11 ・南分署の救急自動車を更新
	09	03	18 ・第1分団第4部の消防ポンプ自動車を小型動力ポンプ付積載車（B3級）に更新
	〃	04	01 ・消防士4名を採用、消防長以下119名となる。消防職員定数を119名に改正
	〃	〃	〃 ・事務吏員1名市長部局へ帰任
	〃	〃	〃 ・市長部局より事務吏員2名出向
	〃	〃	〃 ・消防吏員1名市長部局より帰任
	〃	〃	〃 ・消防本部の組織改正により次長制を導入、消防次長 亀井淳二氏就任
	〃	〃	〃 ・予防課を防災課に改める。
	〃	〃	〃 ・七代消防署長 川野輝男氏就任
	〃	04	22 ・救急隊員等の教育の場として、湘南救急活動研究協議会が発足する。県下17消防本部より約350名が参加し、伊勢原市民文化会館小ホールで発足式が開催される。
	〃	05	15 ・救急救命士誕生（4人目）
	〃	11	03 ・元分団長 城所勝久氏　叙勲 勲七等青色桐葉章を賜る。
	〃	11	13 ・飲料水兼用貯水槽（100t）を成瀬中学校内に設置
	〃	11	18 ・救急救命士誕生（5人目）

伊勢原市消防のあゆみ

年	月	日		変　　遷
平成	〃	12	03	・本署消防ポンプ自動車（CD-Ⅰ型）を更新
	10	03	31	・九代消防長 藤川憲一氏退職
	〃	04	01	・十代消防長 亀井淳二氏就任
	〃	〃	〃	・消防団長 磯﨑敬三氏再任
	〃	〃	〃	・事務吏員1名市長部局へ帰任
	〃	〃	〃	・消防長以下116名となる。
	〃	〃	〃	・消防署の組織改正により西分署に救急隊発足（消防隊兼任を解く）
	〃	05	21	・救急救命士誕生（6人目）
	〃	12	04	・救急救命士誕生（7人目）
	11	02	26	・第2分団第1部の消防ポンプ自動車を（BD-Ⅰ型）に更新
	〃	04	01	・消防士2名を採用、消防長以下117名となる。
	〃	〃	〃	・市長部局より事務吏員1名出向
	〃	〃	〃	・事務吏員1名市長部局へ帰任
	〃	06	15	・山岳救援隊の発足
	12	03	10	・本署水槽付消防ポンプ自動車をⅡ型に更新
	〃	〃	〃	・第3分団第1部、第4分団第1部の消防ポンプ自動車をBD-Ⅰ型（A2級）に更新
	〃	〃	〃	・第1分団第5部、第5分団第3部の車両を小型動力ポンプ付積載車（B3級）に更新
	〃	03	31	・十代消防長 亀井淳二氏退職
	12	03	31	・参事 袖田和由氏退職
	〃	04	01	・十一代消防長 濱田和雄氏就任
	〃	〃	〃	・消防団長 磯﨑敬三氏再任
	〃	〃	〃	・八代消防署長 三橋政行氏就任
	〃	〃	〃	・消防士3名を採用、消防長以下117名となる。
	〃	04	29	・元分団長 越地常久氏　叙勲 勲七等青色桐葉章を賜る。
	〃	05	12	・救急救命士誕生（8人目）
	〃	11	17	・救急救命士誕生（9人目）
	13	01	07	・市制施行30周年記念消防出初式に姉妹都市茅野市消防団ラッパ隊が特別参加
	〃	02	27	・西分署の救急自動車を更新
	〃	〃	〃	・第5分団第1部、第6分団第1部の消防ポンプ自動車をBD-Ⅰ型に更新
	〃	〃	〃	・第2分団第2部、第3分団第3部の車両を小型動力ポンプ付積載車（B3級）更新
	〃	03	08	・消防庁長官より表彰旗が授与される。
	〃	04	01	・消防士2名を採用、消防長以下118名となる。
	〃	〃	〃	・事務吏員1名市長部局へ帰任
	〃	11	20	・救急救命士誕生（10人目）
	〃	11	27	・元消防長 萩原三郎氏　叙位死亡叙勲 正六位勲六等瑞宝章を賜る。
	〃	12	07	・本署耐震補強工事完成
	〃	12	20	・基地局全国波を導入
	14	03	12	・第1分団第2部小型動力ポンプ付積載車（B3級）更新
	〃	03	29	・第6分団第4部待機室新築工事完成（プレハブ造）
	〃	03	31	・十一代消防長 濱田和雄氏退職
	〃	〃	〃	・参事 川野輝男氏退職
	〃	04	01	・十二代消防長 黒田義夫氏就任
	〃	〃	〃	・消防団長 磯崎敬三氏再任
	〃	〃	〃	・九代消防署長 芳賀武氏就任
	〃	〃	〃	・消防士2名を採用、消防長以下119名となる。消防職員定数を121名に改正
	〃	〃	〃	・市長部局より事務吏員2名出向
	〃	〃	〃	・事務吏員1名市長部局へ帰任
	〃	05	29	・神奈川県消防協会伊勢原支部設立

伊勢原市消防のあゆみ

年	月	日	変遷
平成	〃	06	10	・消防署南分署資機材運搬車を更新
	〃	08	05	・災害対策車を更新
	〃	11	12	・救急救命士誕生（11人目）
	15	02	20	・本署の救急自動車を更新
	〃	〃	〃	・第1分団第6部、第4分団第2部、第4分団第5部、第5分団第2部、第6分団第3部小型動力ポンプ付積載車(B3級）更新
	〃	03	17	・第1分団第5部車庫・待機室新築工事完成
	〃	04	01	・消防司令補 和田健一郎 派遣教官として神奈川県消防学校に出向（2年間）
	〃	〃	〃	・消防本部防災課に査察係を新設(予防係、査察係)
	〃	〃	〃	・消防署の係制を廃止し部隊制とし、救助係から救命救急隊を分離独立させる。
	〃	〃	〃	・救急分隊を救命救急分隊に名称変更する。
	〃	07	27	・第1回消防フェスティバル2003を市運動公園自由広場で開催
	〃	〃	〃	・第1回消防団市操法大会を開催
	15	10	22	・消防本部広報車を更新
	〃	11	11	・第１分団第１部消防ポンプ自動車をCD-Ⅰ型に更新
	〃	11	13	・救急救命士誕生（12人目）
	16	03	01	・消防本部3階会議室を指令室とし、新システム消防緊急通信指令システム導入
	〃	03	31	・十二代消防長 黒田義夫氏役職定年
	〃	〃	〃	・参事 片野勝義氏退職
	〃	〃	〃	・十一代消防団長 磯崎敬三氏退団
	〃	04	01	・十三代消防長 三橋政行氏就任
	〃	〃	〃	・十二代消防団長 鳥海謙一氏就任
	〃	〃	〃	・消防士1名を採用、消防長以下119名となる。
	〃	〃	〃	・市長部局より事務吏員1名出向
	〃	10	23	・新潟県中越地震発生に伴い緊急消防援助隊救急部隊等派遣（救命救急隊・後方支援隊）5名派遣
	〃	〃	31	・旧通信指令室を仮眠室及び倉庫に改修完成
	〃	11	03	・元消防団長 鈴木美男氏　叙勲Ⅱ類 瑞宝単光章を賜る。
	〃	11	24	・救急救命士誕生（13人目）
	〃	12	24	・第4分団第3部小型動力ポンプ付積載車(B3級）更新
	17	02	08	・南分署訓練塔改修工事完成
	〃	02	09	・平成11年度からアナログからデジタルへ更新を進めていた、防災行政用無線固定系屋外子局7局を更新し94局すべてが更新完了
	〃	02	25	・消防署の救助工作車を更新
	〃	03	18	・第4分団第5部 車庫・待機室新築工事完成
	〃	04	01	・消防士2名を採用、消防長以下121名となる。
	〃	〃	〃	・市長部局より事務吏員1名出向
	〃	〃	〃	・防災対策の執行体制強化のため、防災課の防災対策業務と火災予防業務を分離し、予防課を設置
	〃	07	03	・第2回消防フェスティバル2005を市総合運動公園自由広場で開催
	〃	〃	〃	・第2回消防団市操法大会を開催
	〃	09	07	・携帯電話からの119番直接受信システムの運用開始
	〃	10	20	・第17回全国女性消防操法大会に女性防火指導員7人が出場（横浜市）
	〃	11	16	・救急救命士誕生（14人目）
	〃	11	28	・第3分団第4部、第6分団第2部小型動力ポンプ付積載車(B3級）更新
	18	01	30	・12m級はしご車を13m級高所救助車に更新
	〃	03	20	・南分署水槽付消防ポンプ自動車を更新
	〃	03	31	・参事 笹尾一氏退職
	〃	04	01	・消防士3名を採用、消防長以下121名となる。
	〃	〃	〃	・消防団長 鳥海謙一氏再任

伊勢原市消防のあゆみ

年	月	日	変遷
平成	〃	09	21	・西分署の防災資機材運搬車を更新
	〃	10	01	・サイレン吹鳴装置老朽化に伴い、団出動を電子メールによる指令に切替え運用開始
	〃	〃	〃	・ＡＥＤ（自動体外式除細動器）を市内公共施設27か所と消防車両6台に設置
	〃	11	07	・消防本部の防災資機材運搬車を更新
	〃	12	01	・第5分団第5部小型動力ポンプ付積載車（B3級）更新
	19	01	17	・テレホンサービス案内を10回線から30回線に増設しトーキ自動案内装置として整備
	〃	03	22	・西分署の消防ポンプ自動車を更新
	〃	03	31	・十三代消防長 三橋政行氏役職定年
	〃	04	01	・行政組織の再編成等に伴い、防災関係事務の一部を市長部局（企画部企画調整課）に編入、防災課と予防課を予防・防災課に統合、係制から担当制に移行
	〃	〃	〃	・十四代消防長 田中健治氏就任
	〃	〃	〃	・十代消防署長 落合穂積氏就任
	〃	04	01	・消防士6名を採用、消防長以下124名となる。消防職員定数126名に改正
	〃	〃	〃	・事務職員2名市長部局へ帰任
	〃	〃	〃	・消防吏員1名市長部局へ出向
	〃	〃	〃	・市長部局より事務職員1名出向
	〃	05	01	・救急救命士誕生（15人目）
	〃	06	29	・消防本部の査察車を更新
	〃	07	01	・第3回消防フェスティバル2007を市運動公園自由広場で開催
	〃	〃	〃	・第3回消防団市操法大会を開催
	〃	08	23	・40m級はしご付消防自動車オーバーホール完了
	〃	09	02	・神奈川県との合同総合防災訓練を実施
	〃	09	26	・第1分団第3部、第4分団第4部小型動力ポンプ付積載車（B3級）更新
	20	03	01	・消防本部の指令車を更新
	〃	03	18	・南分署外壁等改修工事完了
	〃	03	20	・西分署の水槽付消防ポンプ自動車を更新
	〃	03	31	・専任参事 三橋政行氏退職
	〃	〃	〃	・参事 芳賀武氏退職
	〃	〃	〃	・十四代消防長 田中健治氏役職定年
	〃	〃	〃	・十二代消防団長 鳥海謙一氏退団
	〃	04	01	・十五代消防長 代田豊氏就任
	〃	〃	〃	・十三代消防団長 下山博氏就任
	〃	〃	〃	・消防士4名を採用、消防長以下122名となる。
	〃	〃	〃	・事務職員1名市長部局へ帰任
	〃	04	22	・救急救命士誕生（16人目）
	〃	07		・第37回消防救助技術関東地区指導会 引揚救助の部出場
	〃	10	31	・気象観測装置オーバーホール完了
	〃	11	01	・消防緊急通信指令システム機器更新
	〃	11	11	・第3分団第2部、第5分団第4部小型動力ポンプ付積載車（B3級）更新
	〃	11	28	・南分署の救急自動車を更新
	21	02	09	・南分署の消防ポンプ自動車を更新
	〃	03	31	・全国瞬時警報システム Ｊ－Ａｌｅｒｔ（ジェイアラート）整備完了
	〃	〃	〃	・専任参事 田中健治氏退職
	〃	〃	〃	・参事兼消防署長 落合穂積氏退職
	〃	〃	〃	・十五代消防長 代田豊氏役職定年
	〃	04	01	・行政組織の一部改編する。企画部に防災課が新設され予防・防災課防災担当を編入し、予防・防災課を予防課に改名

伊勢原市消防のあゆみ

年	月	日	変遷
平成	21	04	01	・十六代消防長 佐々木正行氏就任
	〃	〃	〃	・十一代消防署長 飯山健二氏就任
	〃	〃	〃	・消防士7名を採用（女性消防吏員含む）、消防長以下116名となる。
	〃	〃	〃	・事務職員1名市長部局へ帰任
	〃	〃	〃	・消防吏員3名市長部局へ出向
	〃	〃	〃	・市長部局より事務職員1名出向
	〃	04	25	・伊勢原ロータリークラブより自動体外式除細動器（AED）2台、小児蘇生訓練用人形1体の寄贈を受ける。
	〃	05	19	・救急救命士誕生（17人目）
	〃	07	05	・第4回消防団市操法大会を開催
	〃	07		・第38回消防救助技術関東地区指導会 引揚救助の部出場
	〃	11	25	・現場指揮車を更新
	〃	12	10	・南分署非常用発電機更新
	〃	12	16	・第1分団第2部車庫・待機室移転新築工事完成
	22	02	24	・第6分団第4部消防ポンプ自動車（BSⅠ型）を小型動力ポンプ付積載車（B2級）に更新（総務省消防庁より無償貸与）
	〃	03	31	・専任参事 代田豊氏退職
	〃	〃	〃	・参事兼消防署長 飯山健二氏退職
	〃	〃	〃	・女性防火指導員制度を廃止
	〃	04	01	・十二代消防署長 中山敏雄氏就任
	〃	〃	〃	・消防団長　下山博氏再任
	〃	〃	〃	・事務吏員1名市長部局へ帰任
	〃	〃	〃	・消防吏員2名市長部局より帰任
	〃	〃	〃	・消防士4名を採用（救急救命士含む）、消防長以下115名となる。
	〃	〃	〃	・伊勢原市消防団の設置及び定員に関する条例を改正し、定員を335人から346人とし、女性消防団員20名を採用する。
	〃	04	13	・西分署の救急自動車を更新
	〃	05	11	・救急救命士誕生（18人目）
	〃	07		・第39回消防救助技術関東地区指導会 引揚救助の部出場
	〃	08	12	・位置情報通知システム（NTT加入電話・携帯・IP電話統合版）整備（総務省消防庁より無償貸与）
	〃	08	19	・第2分団第3部小型動力ポンプ付積載車（B3級軽車両）更新
	〃	11	03	・元消防長 亀井淳二氏　第15回危険業務従事者叙勲 瑞宝双光章を賜る。
	23	01	09	・市制施行40周年記念消防出初式　姉妹都市茅野市消防団ラッパ隊特別参加
	〃	02	04	・化学消防ポンプ自動車を更新
	〃	03	09	・南分署車庫前舗装改良工事
	〃	03	11	・東日本大震災発生に伴い、緊急消防援助隊救急部隊等派遣 第1次隊～第5次隊（救命救急隊・後方支援隊）　延べ25名派遣
	〃	03	31	・消防長 佐々木正行氏退職
	〃	〃	〃	・参事兼消防署長 中山敏雄氏退職
	〃	04	01	・十七代消防長 金子義雄氏就任
	〃	〃	〃	・十三代消防署長 鈴木敬二氏就任
	〃	〃	〃	・消防士７名採用（女性消防吏員含む）、消防長以下117名となる。
	〃	05	11	・救急救命士誕生（19人目）
	〃	07	03	・第5回消防団市操法大会を開催
	23	09	01	・消防本部連絡車を更新
	〃	11	03	・元消防長 濱田和雄氏　第17回危険業務従事者叙勲 瑞宝双光章を賜る。
	〃	11	11	・第17回全国女性消防団員活性化香川大会に出席
	24	01	16	・本署の救急自動車を更新
	〃	03	31	・十三代消防団長 下山　博氏退団

伊勢原市消防のあゆみ

年	月	日	変遷
平成	〃	04	01	・十四代消防団長 加藤重治 就任
	〃	〃	〃	・消防士6名を採用（救急救命士含む）、消防長以下122名となる。
	〃	〃	〃	・行政組織の一部が改編され、消防総務課に警防担当課長を配置し、チーム制を係制に変更する。
	〃	05	09	・救急救命士誕生（20人目）
	〃	07	06	・第41回消防救助技術関東地区指導会 引揚救助の部出場
	〃	11	03	・元分団長 苅籠敏夫氏　叙勲Ⅱ類 瑞宝単光章を賜る。
	〃	11	16	・第18回全国女性消防団員活性化秋田大会に出席
	25	01	30	・第１分団第４部小型動力ポンプ付積載車（Ｂ３級）更新
	〃	03	01	・第５分団第４部車庫・待機室移転新築工事完成
	〃	03	31	・消防長 金子義雄氏退職
	〃	03	31	・参事兼消防署長　鈴木敬二氏退職
	〃	04	01	・十八代消防長　髙橋　登氏就任
	〃	〃	〃	・十四代消防署長　亀井正一氏就任
	〃	〃	〃	・消防士３名採用（女性消防吏員･救急救命士含む）、消防長以下120名となる。
	〃	04	29	・元消防団長　磯崎　敬三氏　叙勲Ⅰ類　瑞宝双光章を賜る。
	〃	04	30	・救急救命士誕生（21人目）
	〃	07	07	・第6回消防団市操法大会を開催
	〃	10	30	・第19回全国女性消防団員活性化岐阜大会に出席
	26	01	30	・本署消防ポンプ自動車（CDⅠ型）を更新
	〃	04	01	・消防士３名採用、消防長以下119名となる。
	〃	〃	〃	・消防団長　加藤重治氏再任
	〃	〃	〃	・行政組織の一部が改変され、消防本部に警防救急課を新設し、警防係、救急救命係の２係を配置。また、南分署及び西分署を警備１課及び警備２課に統合
	〃	〃	〃	・消防士長 吉田昌弘 派遣教官として神奈川県消防学校に出向（2年間）
	〃	05	01	・救急救命士誕生（22人目）
	〃	07	31	・第43回消防救助技術関東地区指導会 引揚救助の部出場
	〃	11	14	・第20回全国女性消防団員活性化千葉大会に出席
	27	01	29	・第２分団第１部消防ポンプ自動車（Ａ２級）更新
	〃	02	04	・本署30ｍはしご付消防自動車を更新
	〃	〃	07	・全国消防長会関東支部、日本救急医学会関東地方会の主催による、第52回救急隊員学術研究会を伊勢原市消防本部が事務局となり、１都６県の１４３消防本部から約６７０名が参加し、パシフィコ横浜会議センターで開催された。
	〃	〃	10	・本署40ｍはしご付消防自動車を日本外交協会へ譲渡
	〃	03	03	・第2分団第1部消防ポンプ車を日本消防協会へ譲渡
	〃	〃	31	・消防長 髙橋　登氏退職
	〃	〃	〃	・参事兼消防署長　亀井正一氏退職
	〃	04	01	・十九代消防長　吉川敏勝氏 就任
	〃	〃	〃	・十五代消防署長　石田博道氏 就任
	27	04	01	・消防士１名採用、消防長以下118名となる。
	〃	〃	〃	・消防吏員1名市長部局へ出向
	〃	〃	〃	・市長部局より事務職員1名出向
	〃	〃	〃	・高機能消防指令センターとして運用を開始 指令システムと消防･救急デジタル無線が更新
	〃	04	30	・救急救命士誕生（23人目）
	〃	05	11	・元参事兼消防署長　川野　輝男氏、元参事 笹尾　一氏　第24回危険業務従事者叙勲瑞宝双光章を賜る。
	〃	10	29	・第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会に出席
	〃	11	09	・元消防長　三橋　政行氏　第25回危険業務従事者叙勲　瑞宝双光章を賜る。

伊勢原市消防のあゆみ

年	月	日	変遷
平成	28	02	03	・第1分団第5部、第5分団第3部小型動力ポンプ付積載車（B3級）更新
	〃	02	22	・本署給水タンク車及び水槽２基を日本外交協会へ譲渡
	〃	04	01	・消防士３名採用（救急救命士含む）、消防長以下116名となる。
	〃	〃	〃	・消防団長　加藤重治氏再任
	〃	〃	〃	・消防吏員1名市長部局より帰任、事務職員2名市長部局へ帰任
	〃	〃	〃	・消防司令補 吉田昌弘 神奈川県消防学校より帰任
	〃	04	28	・救急救命士誕生（24人目）
	〃	05	11	・元消防長　田中　健治氏、元参事兼消防署長　落合　穂積氏　第26回危険業務従事者叙勲瑞宝双光章を賜る。
	〃	05	16	・元団長 鳥海　謙一氏　叙勲Ⅱ類 瑞宝単光章を賜る。
		06	03	・第22回全国女性消防団員活性化北海道大会に出席
	〃	07	13	・第45回消防救助技術関東地区指導会 引揚救助の部出場
	〃	08	24	・第45回全国消防救助技術大会　引揚救助の部出場　松山市
	〃	11	09	・元参事兼消防署長　飯山　健二氏　第27回危険業務従事者叙勲 瑞宝双光章を賜る。
	29	01	16	・第1分団第2部、第2分団第2部、第3分団第3部小型動力ポンプ付積載車（B3級）更新
	〃	01	18	・南分署の救急自動車を更新
	〃	04	01	・消防士４名採用（救急救命士含む）、消防長以下121名となる。
	〃	〃	〃	・秦野市消防本部と人事交流 伊勢原市 消防司令補 千 葉　崇、秦野市 消防司令補 滝 本 篤 志
	〃	04	27	・救急救命士誕生（25人目）
	〃	04	29	・元消防司令長　田中　正男氏　第28回危険業務従事者叙勲 瑞宝双光章を賜る。
	〃	〃	〃	・元消防司令長　梶　誓夫氏　第28回危険業務従事者叙勲 瑞宝単光章を賜る。
	〃	07	14	・第46回消防救助技術関東地区指導会 引揚救助の部出場(山梨県消防学校)
	〃	11	03	・元消防司令長　柳川　和男氏　第29回危険業務従事者叙勲 瑞宝単光章を賜る。
	〃	〃	〃	・元消防司令長　増井　英雄氏　第29回危険業務従事者叙勲 瑞宝双光章を賜る。
	〃	11	16	・第23回全国女性消防団員活性化広島大会に出席
	30	02	01	・消防本部の広報車を更新
	〃	02	08	・西分署の救急自動車を更新
	〃	02	15	・第3分団第1部、第4分団第1部、小型動力ポンプ付積載車（B2級）更新
	〃	03	18	・第４分団第２部車庫・待機室新築工事完成
	〃	03	31	・十四代消防団長 加藤重治氏 退団
	〃	04	01	・十五代消防団長 田中和浩氏 就任
	〃	〃	〃	・消防士１０名採用（救急救命士含む）、消防長以下126名となる。
	〃	〃	〃	・秦野市消防本部と人事交流 伊勢原市 消防士長 加 藤　郷、秦野市 消防司令補 佐 野　勇

歴代消防長・消防署長及び叙勲受章者

□　消防長

歴代	氏　　名	在　　職　　期　　間	在職年数
初代	横　山　久　男	昭和41年４月１日 ～ 昭和42年８月31日	１年５か月
２代	内　海　弁　次	昭和42年９月１日 ～ 昭和48年３月31日	５年７か月
３代	横　溝　利　和	昭和48年４月１日 ～ 昭和50年３月31日	２年
４代	萩　原　三　郎	昭和50年４月１日 ～ 昭和60年９月30日	10年６か月
５代	近　藤　英　男	昭和60年10月１日 ～ 昭和61年３月31日	６か月
６代	中　村　通　雄	昭和61年４月１日 ～ 平成４年３月31日	６年
７代	森　屋　正　義	平成４年４月１日 ～ 平成５年３月31日	１年
８代	横　山　宗　男	平成５年４月１日 ～ 平成８年３月31日	３年
９代	藤　川　憲　一	平成８年４月１日 ～ 平成10年３月31日	２年
10代	亀　井　淳　二	平成10年４月１日 ～ 平成12年３月31日	２年
11代	濱　田　和　雄	平成12年４月１日 ～ 平成14年３月31日	２年
12代	黒　田　義　夫	平成14年４月１日 ～ 平成16年３月31日	２年
13代	三　橋　政　行	平成16年４月１日 ～ 平成19年３月31日	３年
14代	田　中　健　治	平成19年４月１日 ～ 平成20年３月31日	１年
15代	代　田　　豊	平成20年４月１日 ～ 平成21年３月31日	１年
16代	佐々木　正　行	平成21年４月１日 ～ 平成23年３月31日	２年
17代	金　子　義　雄	平成23年４月１日 ～ 平成25年３月31日	２年
18代	髙　橋　　登	平成25年４月１日 ～ 平成27年３月31日	２年

□　消防署長

歴代	氏　　名	在　　職　　期　　間	在職年数
初代	秋　本　芳　男	昭和42年４月１日 ～ 昭和42年８月31日	５か月
２代	萩　原　三　郎	昭和42年９月１日 ～ 昭和50年３月31日	７年７か月
３代	亀　井　　博	昭和50年４月１日 ～ 昭和57年１月31日	６年10か月
４代	喜多野　昌　男	昭和57年２月１日 ～ 昭和61年３月31日	４年２か月
５代	袖　田　和　由	昭和61年４月１日 ～ 平成２年３月31日	４年
６代	濱　田　和　雄	平成２年４月１日 ～ 平成９年３月31日	７年
７代	川　野　輝　男	平成９年４月１日 ～ 平成12年３月31日	３年
８代	三　橋　政　行	平成12年４月１日 ～ 平成14年３月31日	２年
９代	芳　賀　　武	平成14年４月１日 ～ 平成19年３月31日	５年
10代	落　合　穂　積	平成19年４月１日 ～ 平成21年３月31日	２年
11代	飯　山　健　二	平成21年４月１日 ～ 平成22年３月31日	１年
12代	中　山　敏　雄	平成22年４月１日 ～ 平成23年３月31日	１年
13代	鈴　木　敬　二	平成23年４月１日 ～ 平成25年３月31日	２年
14代	亀　井　正　一	平成25年４月１日 ～ 平成27年３月31日	２年

□　叙勲受章者

No.	受　章　者	受　章　日	叙勲種別	階　級
1	萩　原　三　郎	平成13年11月27日	正六位勲六等瑞宝章	消 防 監
2	亀　井　淳　二	平成22年11月 3日	瑞宝双光章	消 防 監
3	濱　田　和　雄	平成23年11月 3日	瑞宝双光章	消 防 監
4	川　野　輝　男	平成27年 4月29日	瑞宝双光章	消防司令長
5	笹　尾　　一	平成27年 4月29日	瑞宝双光章	消防司令長
6	三　橋　政　行	平成27年11月 9日	瑞宝双光章	消 防 監
7	田　中　健　治	平成28年 5月11日	瑞宝双光章	消 防 監
8	落　合　穂　積	平成28年 5月11日	瑞宝双光章	消防司令長
9	飯　山　健　二	平成28年11月 9日	瑞宝双光章	消防司令長
10	梶　　誓　夫	平成29年 4月29日	瑞宝単光章	消防司令長
11	田　中　正　男	平成29年 4月29日	瑞宝双光章	消防司令長
12	柳　川　和　男	平成29年11月 3日	瑞宝単光章	消防司令長
13	増　井　英　雄	平成29年11月 3日	瑞宝双光章	消防司令長

1　消防情勢

１－１　消防予算

平成３０年度一般会計予算は、３２０億４，７００万円で前年度と比較し１．６％増となっており、消防費のうち防災対策費を除いた予算額は１２億９８５５万４千円で前年度比０．５％の減であり、一般会計当初予算に対する構成比は、約４．０５％になっている。

１－２　市の一般会計予算と消防費との比較

（千円）

年度／予算区分	平成３０年度	平成２９年度	平成２８年度	平成２７年度	平成２６年度
一般会計	32,047,000	31,533,000	31,100,000	30,316,000	28,852,000
消防費	1,298,554	1,305,477	1,285,496	1,127,526	1,451,894
比率	4.05%	4.14%	4.13%	3.72%	5.03%

※　防災対策費は含まない。

１－３　消防費前年度比較

（千円）

年度／区分	平成３０年度		平成２９年度		増減額
	当初予算額	構成比	当初予算額	構成比	
常備消防費	1,135,924	87%	1,141,286	87%	△ 5,362
非常備消防費	74,350	6%	58,173	5%	16,177
消防施設費	88,280	7%	106,018	8%	△ 17,738
合計	1,298,554	100%	1,305,477	100%	△ 6,923

１－４　消防費と人口との比較

（平成３０年度）

予算額		１世帯当たり	１人当たり
一般会計予算額	32,047,000,000円	715,191円	312,910円
消防費予算額	1,298,554,000円	28,979円	12,679円

１－５　市民と消防

（平成３０年４月１日現在）

消防吏員一人に対して	人　　口	813人
	世　　帯	356世帯
消防団員一人に対して	人　　口	298人
	世　　帯	130世帯

１－６　常備消防の現勢

（平成３０年４月１日現在）

消防本部設置	昭和４１年４月１日	
消防署設置	昭和４２年４月１日	

消防職員	126人	条例定数126名
消防ポンプ自動車	3台	
水槽付消防ポンプ自動車	2台	
化学消防ポンプ自動車	1台	
30M級はしご付消防自動車	1台	
13M級高所救助車	1台	
救助工作車	1台	
小型動力ポンプ	4台	
救急自動車	4台	
指令車	1台	
連絡車	1台	
現場指揮車	1台	
査察車	1台	
広報車	1台	
防災資機材運搬車	3台	
無線基地局	2局	活動波　2局
無線固定局	3局	いせはら指揮4 南1 西1
無線移動局	21基	車　載　消防用 17　救急用 4
無線携帯局（デジタル系）	11基	いせはら指揮2･3含む
無線携帯局（署活系）	24基	
防災相互波	4基	

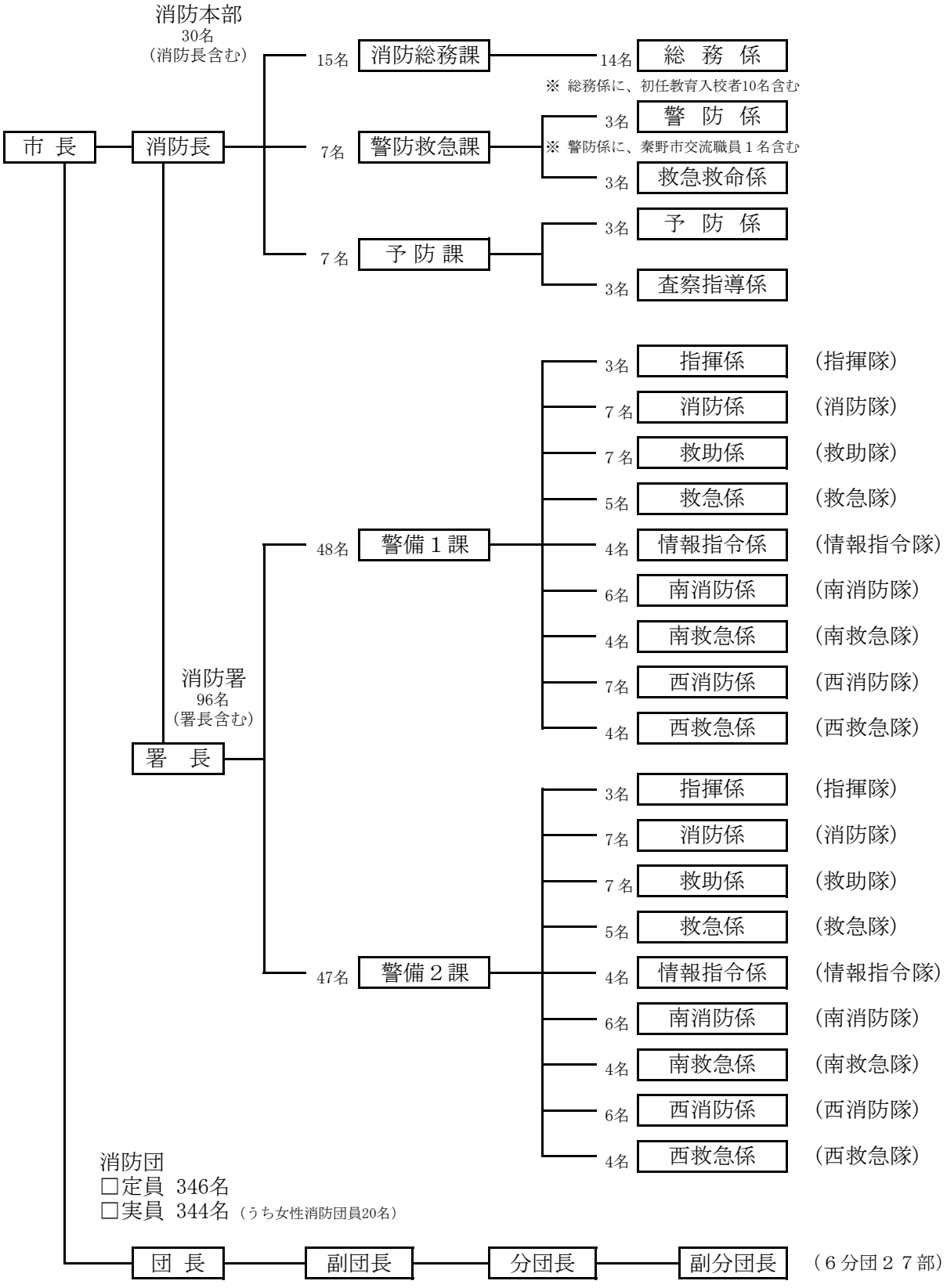
１－７　消防庁舎の現況

名　　称	所　　在　　地	敷地面積	延　面　積	建設年月
消防本部 消防署	伊勢原３丁目３２番２０号	2,026.55㎡	1567.14㎡	昭和60年3月 昭和43年6月
南分署	下谷１４９１番地	3,903.00㎡	844.00㎡	昭和57年4月
西分署	三ノ宮４９２番地２	2,313.00㎡	544.96㎡	平成４年8月

１－８　消防機構図

（平成３０年４月１日現在）

□ 定員 １２６名
□ 実員 １２６名



１－９　　消防本部・署の事務分掌

□ 消防本部

消防総務課

総務係

（１）　消防事業の総合的企画及び調整に関すること。
（２）　消防関係の公印の管理に関すること。
（３）　消防関係の文書の収受及び編さん保存に関すること。
（４）　消防関係の例規等の制定及び改廃に関すること。
（５）　消防職員及び消防団員の任免、服務、身分等に関すること。
（６）　消防団員の報酬、諸手当等に関すること。
（７）　消防職員並びに消防団員の研修及び福利厚生に関すること。
（８）　消防予算の調整及び執行管理に関すること。
（９）　消防庁舎の管理に関すること。
(10)　消防財産の総括管理に関すること。
(11)　消防職員及び消防団員の貸与品の管理に関すること。
(12)　消防のほう賞及び表彰に関すること。
(13)　公務災害補償等に関すること。
(14)　消防団の庶務に関すること。
(15)　消防運営委員会に関すること。
(16)　消防職員委員会に関すること。
(17)　消防長会等関係機関との連絡調整に関すること。
(18)　消防総括統計に関すること。
(19)　伊勢原市コミュニティ防災センターに関すること。
(20)　消防職員の教育に関すること。
(21)　他の課及び係に属さないこと。
(22)　本部内の庶務に関すること。
(23)　課内の庶務に関すること。

警防救急課

警防係

（１）　消防警備計画に関すること。
（２）　消防出初式に関すること。
（３）　消防職員の訓練並びに消防団員の教育及び訓練に関すること。
（４）　消防水利の整備及び管理に関すること。
（５）　消防車両の整備及び管理に関すること。
（６）　消防機械器具等の整備及び管理に関すること。
（７）　消防通信施設の整備及び管理に関すること。
（８）　消防団施設の整備及び管理に関すること。
（９）　諸災害の消防対策に関すること。
(10)　開発行為等に対する消防施設の設置指導に関すること。
(11)　消防相互応援協定に関すること。
(12)　消防技術の調査及び研究に関すること。
(13)　火災警報の発令に関すること。
(14)　山岳救援隊に関すること。
(15)　警防統計に関すること。
(16)　課内の庶務に関すること。

救急救命係

（１）　メディカルコントロール体制に関すること。

（２） 神奈川県ドクターヘリ事業に関すること。
（３） 市民等に対する応急救護等の教育及び訓練に関すること。
（４） 救急医療機関との連絡調整に関すること。
（５） ＡＥＤの普及促進に関すること。
（６） 救急隊員の教育及び研修に関すること。
（７） 救急業務の企画及び調整に関すること。
（８） 救急統計に関すること。
（９） 高速道路神奈川県協議会との連絡調整に関すること。

予防課

予防係
（１） 火災予防計画に関すること。
（２） 火災予防思想の普及及び啓発に関すること。
（３） 火災予防広報に関すること。
（４） 建築確認の同意事務に関すること。
（５） 消防用設備等の設置、指導及び検査に関すること。
（６） 危険物施設に係る許認可に関すること。
（７） 液化石油ガス等の保安に関すること。
（８） 危険物の安全管理に関すること。
（９） 危険物関係団体の指導育成に関すること。
(10) 予防統計に関すること。
(11) 課内の庶務に関すること。

査察指導係
（１） 防火対象物の指導及び予防査察に関すること。
（２） 防火対象物の消防計画に関すること。
（３） 火災の原因及び損害調査並びにり災証明に関すること。
（４） 消防用設備等及び防火対象物の点検、報告に関すること。
（５） 危険物施設に係る指導及び査察に関すること。
（６） 危険物取扱者の指導育成に関すること。
（７） 防火管理者の指導育成に関すること。
（８） 事業所等の教育及び訓練に関すること。
（９） 査察統計、火災統計及び危険物統計に関すること。

□ 消防署

警備１課／２課

指揮係
（１） 文書及び公印管理に関すること。
（２） 水火災の警戒、防御及び人命救助に関すること。
（３） 水火災防御計画の策定に関すること。
（４） 地水利調査及び防火対象物の立入検査に関すること。
（５） 消防訓練及び消防技術の研究に関すること。
（６） 火災の原因及び損害調査に関すること。
（７） 火災等災害現場速報及び各隊（消防団を含む）の活動状況調査に関すること。
（８） 消防用機械等の維持管理に関すること。
（９） 救急、救助業務の支援に関すること。
(10) 消防署内の事務連絡に関すること。
(11) 課内の庶務に関すること。
(12) その他課又は分署に属さないこと。

消防係 （１） 水火災の警戒、防御及び人命救助に関すること。 （２） 水火災防御計画の策定に関すること。 （３） 地水利調査及び防火対象物の立入検査に関すること。 （４） 消防訓練及び消防技術の研究に関すること。 （５） 空き地及び空き家の火災予防対策に関すること。 （６） 火災の原因及び損害調査に関すること。 （７） 火災等災害現場速報及び各隊（消防団を含む）の活動状況調査に関すること。 （８） 消防用機械等の維持管理に関すること。 （９） 救急、救助業務の支援に関すること。
救助係 （１） 水火災の警戒、防御及び人命救助に関すること。 （２） 火災防御計画の策定に関すること。 （３） 救助業務に関すること。 （４） 地水利調査及び防火対象物の立入検査に関すること。 （５） 消防訓練及び消防技術の研究に関すること。 （６） 空き地及び空き家の火災予防対策に関すること。 （７） 消防活動に支障を及ぼす行為の届出等の処理に関すること。 （８） 救急業務の支援に関すること。 （９） 救助用機械等の維持管理に関すること。
救急係 （１） 救急高度化の推進に関すること。 （２） 救急業務に関すること。 （３） 救急患者の応急手当及び搬送に関すること。 （４） 救急用機械等の維持管理に関すること。 （５） 応急手当の普及及び啓発活動に関すること。
情報指令係 （１） 消防、救急等の指令に関すること。 （２） 消防、救急等の通信及び無線に関すること。 （３） 消防、防災行政用無線及び防災情報に関すること。 （４） 消防の情報収集及び伝達に関すること。 （５） 通信機器の保守管理に関すること。 （６） 通信技術の研究及び運用に関すること。 （７） 消防用気象観測に関すること。 （８） 消防庁舎内電話交換業務に関すること。 （９） その他通信に関すること。
南消防係 （１） 水火災の警戒、防御及び人命救助に関すること。 （２） 水火災、防御計画の策定に関すること。 （３） 救助業務に関すること。 （４） 地水利調査及び防火対象物の立入検査に関すること。 （５） 消防訓練及び消防技術の研究に関すること。 （６） 空き地及び空き家の火災予防対策に関すること。 （７） 火災の原因及び損害調査に関すること。 （８） 消防活動に支障を及ぼす行為の届出等の処理に関すること。 （９） 消防通信業務に関すること。

	(10)　水火災等災害現場速報及び各隊（消防団含む）の活動状況調査に関すること。 (11)　消防、救助用機械等の維持管理に関すること。 (12)　救急、救助業務の支援に関すること。 (13)　南分署の庶務に関すること。
	南救急係 （１）　救急高度化の推進に関すること。 （２）　救急業務に関すること。 （３）　救急患者の応急手当及び搬送に関すること。 （４）　救急用機械等の維持管理に関すること。 （５）　応急手当の普及及び啓発活動に関すること。
	西消防係 （１）　水火災の警防、防御及び人命救助に関すること。 （２）　水火災、防御計画の策定に関すること。 （３）　救助業務に関すること。 （４）　地水利調査及び防火対象物の立入検査に関すること。 （５）　消防訓練及び消防技術の研究に関すること。 （６）　空き地及び空き家の火災予防対策に関すること。 （７）　火災の原因及び損害調査に関すること。 （８）　消防活動に支障を及ぼす行為の届出等の処理に関すること。 （９）　消防通信業務に関すること。 (10)　水火災等災害現場速報及び各隊（消防団含む）の活動状況調査に関すること。 (11)　消防、救助用機械等の維持管理に関すること。 (12)　救急、救助業務の支援に関すること。 (13)　西分署の庶務に関すること。
	西救急係 （１）　救急高度化の推進に関すること。 （２）　救急業務に関すること。 （３）　救急患者の応急手当及び搬送に関すること。 （４）　救急用機械等の維持管理に関すること。 （５）　応急手当の普及及び啓発活動に関すること。

１－１０　消防職員の勤務内容

毎日勤務者	隔日勤務者			
1週間の勤務時間	1日の勤務時間	1日の拘束時間	1週間の勤務時間	1週間の拘束時間
38時間45分	15時間30分	24時間	38時間45分	60時間

１－１１　消防職員居住地状況

（平成３０年４月１日現在）

居住地名	市内							市外														合計
	伊勢原	大山	高部屋	比々多	成瀬	大田	小計	厚木	秦野	海老名	平塚	中井	小田原	大磯	藤沢	相模原	愛川	茅ヶ崎	横浜	川崎	東京	小計	
人数	27	3	9	10	15		64	16	19	2	7	2	4	1	1	2	1	2	1	2	2	62	126
比率							50.8%															49.2%	100%

１－１２　消防職員出動状況

（平成29年中）

区分＼種別		合計	火災	林野火災	救急活動	救助活動	風水害	演習訓練
消防本部・署	件数（件）	6,081	33		4,745	118	2	26
	延人員（人）	21,118	481		14,234	1,456	8	161
	延車両数（台）	6,629	131		4,745	442	2	42

区分＼種別		訓練指導	救急支援活動	警防調査	原因調査	特別警戒	予防査察	その他	誤報等
消防本部・署	件数（件）	45	549	251	33	44	89	146	7
	延人員（人）	154	2,130	984	128	195	329	858	147
	延車両数（台）	45	551	260	33	44	89	245	47

１－１３　消防職員階級別年齢調

（人）（平成３０年４月１日現在）

年齢別	合計	消防吏員								消防事務職員
		小計	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	
合 計	126	126	1	8	28	23	36	9	21	
平 均	37.4歳	37.4歳	58.0歳	56.1歳	54.1歳	42.9歳	30.8歳	26.3歳	22.3歳	
18歳	1	1							1	
19歳										
20歳	1	1							1	
21歳	3	3							3	
22歳	6	6							6	
23歳	5	5							5	
24歳	4	4							4	
25歳	2	2						1	1	
26歳	5	5					1	4		
27歳	5	5					1	4		
28歳	4	4					4			
29歳	6	6					6			
30歳	4	4					4			
31歳	11	11					11			
32歳	2	2					2			
33歳	2	2					2			
34歳	1	1					1			
35歳	1	1					1			
36歳	2	2					2			
37歳	1	1					1			
38歳										
39歳	1	1				1				
40歳	1	1				1				
41歳	4	4				4				
42歳	3	3			1	2				
43歳	7	7			1	6				
44歳	4	4				4				
45歳	7	7			2	5				
46歳	4	4			4					
47歳	1	1			1					
48歳	4	4			4					
49歳	2	2			2					
50歳	1	1			1					
51歳	3	3			3					
52歳	4	4			4					
53歳										
54歳	3	3		2	1					
55歳	5	5		2	3					
56歳										
57歳	2	2		2						
58歳	2	2	1	1						
59歳	2	2		1	1					

１－１４　消防職員階級別勤続年数調

（人）（平成３０年４月１日現在）

年数別	合計	消防吏員								消防事務職員
		小計	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	
合 計	126	126	1	8	28	23	36	9	21	
平 均	17.3年	17.3年	36.0年	37.0年	30.0年	23.6年	10.6年	6.1年	1.2年	
1年未満	10	10							10	
1年	4	4							4	
2年	3	3							3	
3年	1	1							1	
4年	3	3							3	
5年	3	3					1	2		
6年	6	6					2	4		
7年	7	7					4	3		
8年	3	3					3			
9年	7	7					7			
10年	3	3					3			
11年	5	5					5			
12年	3	3					3			
13年	2	2					2			
14年										
15年	1	1					1			
16年	1	1					1			
17年	2	2					2			
18年	3	3				2	1			
19年	2	2				1	1			
20年										
21年	3	3				3				
22年	2	2				2				
23年	2	2				2				
24年	4	4			2	2				
25年	5	5			1	4				
26年	7	7			4	3				
27年	7	7			3	4				
28年	4	4			4					
29年										
30年	2	2			2					
31年	3	3		1	2					
32年										
33年	5	5			5					
34年	2	2		1	1					
35年										
36年	6	6	1	2	3					
37年										
38年										
39年	2	2		2						
40年	2	2		1	1					
41年	1	1		1						

１－１５　消防職員年度別推移

（人）（平成３０年４月１日）

区分＼年度	平成３０年度	平成２９年度	平成２８年度	平成２７年度	平成２６年度
消防職員数	126	121	116	117	118
前年度当初人員	121	116	117	118	120
前年度退職者	△5	△ 1	△ 2	△ 2	△ 4
採用人員	10	4	3	1	3
市長部局より出向			1	1	
市長部局へ出向			△ 2	-1	
消防学校へ出向			1		△ 1
産休取得中		2	△ 2		

１－１６　消防職員研修実施状況

□ 神奈川県消防学校　（平成２９年度）

	科目	教育期間	日数	階級	人員
専科教育	警防科	H29.10.16～H29.10.27	10日	消防士長	1人
	特殊災害科	H30.1.15～H30.1.23	7日	消防士長	1人
	火災調査科	H30.1.15～H30.1.26	10日	消防士長	2人
	予防査察科	H30.2.7～H30.2.21	10日	消防士長	1人
	救急科第２回（宿泊）	H29.10.16～H29.12.22	49日	消防士	1人
	救助科	H29.10.10～H29.11.7	20日	消防士長	1人
特別教育	特別救助隊員研修	H30.2.19～H30.2.23	5日	消防士長	1人
	はしご車操作員課程	H30.2.14～H30.2.16	3日	消防士長	1人
	操法指導員研修(小型ポンプ)	H29.5.25	1日	消防司令補	2人
	研修教官教育	H29.8.17～H29.9.1	12日	消防司令補	1人

□ 消防大学校　（平成２９年度）

科目	教育期間	日数	階級	人員
警防科	H29.6.8～H29.7.27	35日	消防司令補	1人

□ 救急救命士養成所　（平成２９年度）

科目	教育期間	月数	階級	人員
救急振興財団救急救命東京研修所第53期	H29.9.1～H30.3.12	6ヶ月	消防士長	1人

１－１７　消防職員の免許・特殊技能資格者調

（人）（平成３０年４月１日現在）

免許・資格＼階級		合計	消防吏員							消防事務職員
			消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	
実員		126	1	5	26	28	33	11	22	
資格数合計		979	11	54	297	222	297	50	48	
運転免許	普通	125	1	7	28	24	36	9	20	
	中型	98	1	6	28	25	31	7		
	大型	91	1	7	28	21	27	5	2	
	大型特殊	4			3	1				
	けん引	6			4	2				
	普通二種	1			1					
	大型二種	2			2					
	大特二種									
	けん引二種									
	小型二輪	69	1	2	22	21	20	1	2	
	中型二輪	70	1	3	25	17	20	1	3	
	大型二輪	15			8	4	2		1	
甲種危険物取扱者		1			1					
乙種危険物取扱者【第1類】		4			1		3			
乙種危険物取扱者【第2類】		5			1	1	3			
乙種危険物取扱者【第3類】		8			1	1	6			
乙種危険物取扱者【第4類】		84	1	1	19	22	31	6	4	
乙種危険物取扱者【第5類】		7			3	1	3			
乙種危険物取扱者【第6類】		7			1	1	5			
丙種危険物取扱者		30	1	7	18	4				
甲種消防設備士										
乙種消防設備士		3			2	1				
救急救命士		31		2	9	3	9	1	7	
救急標準課程修了者		62			5	12	33	8	4	
救急Ⅱ課程修了者		29		2	16	11				
消防設備点検資格者		2		1	1					
電気工事士		1		1						
陸上特殊無線技士		103	1	7	24	22	36	9	4	
アマチュア無線技士		8	1		5	1	1			
ガス溶接作業者		11		1	6	4				
アーク溶接作業者		1				1				
玉掛ワイヤー作業者		16			3	2	10	1		
移動式クレーン運転手		20		2	4	4	9	1		
16㎜映写機操作技能資格		8	1	2	5					
衛生管理者		5		2	2		1			
教員免許		7	1		1	3	1	1		
自動車整備士３級		1			1					
高圧ガス製造保安責任者		2			1	1				
足場組立作業主任者		11			6	3	2			
簿記検定	２級	1							1	
	３級	3			1	2				
第２種酸素欠乏危険作業主任者		13		1	5	4	3			
有機溶剤作業主任者										
特定化学物質等作業主任者		14			6	3	5			

１－１８　消防本部・署 車両及び小型動力ポンプ現有状況

（平成３０年４月１日現在）

配置先		車両名称	車種	登録年月日	経過年数	ポンプ 製造元／性能（級）	馬力
消防本部		指令車	日産 セレナ	H20.2.29	10年		129PS
		連絡車	日産 ＮＶ２００	H23.9.1	6年		109PS
		査察車	スズキ エブリィ	H19.10.23	10年		50PS
		広報車	日産 ＮＶ２００	H30.2.1	0年		109PS
		防災資機材運搬車	日野 デュトロ	H18.11.6	11年		105PS
消防署	本署	現場指揮車	日産 キャラバン	H21.11.25	8年		147PS
		化学消防ポンプ自動車	日野 レンジャー	H23.2.4	7年	ＧＭ いちはら／Ａ２	162PS
		消防ポンプ自動車	いすゞ エルフ	H26.1.20	4年	長野ポンプ／Ａ２	140PS
		はしご付消防自動車（３０M級）	日野 プロフィア	H27.2.5	3年		380PS
		救助工作車	日野 レンジャー	H17.2.22	13年		240PS
		高所救助車（１３M級）	日野 デュトロ	H18.1.27	12年		150PS
		救急自動車	トヨタ ハイメディック	H24.1.16	6年		151PS
		救急自動車	トヨタ ハイメディック	H22.4.13	7年		151PS
		小型動力ポンプ		H9.12.16	20年	トーハツ／Ｂ３	32PS
		〃		H14.2.28	15年	トーハツ／Ｂ３	30PS
	南分署	水槽付消防ポンプ自動車	日野 スーパードルフィンプロフィア	H18.3.17	12年	野口ポンプ／Ａ２	380PS
		消防ポンプ自動車	日野 デュトロ	H21.2.5	9年	長野ポンプ／Ａ２	150PS
		救急自動車	トヨタ ハイメディック	H29.1.18	1年		151PS
		防災資機材運搬車	日産 アトラス	H14.6.10	15年		120PS
		小型動力ポンプ		H13.2.15	16年	トーハツ／Ｂ３	30PS
	西分署	水槽付消防ポンプ自動車	日野 スーパードルフィンプロフィア	H20.3.18	10年	野口ポンプ／Ａ２	380PS
		消防ポンプ自動車	日野 デュトロ	H19.3.14	11年	モリタポンプ／Ａ２	150PS
		救急自動車	トヨタ ハイメディック	H30.2.8	0年		151PS
		防災資機材運搬車	日産 アトラス	H18.9.13	11年		120PS
		小型動力ポンプ		H03.10.30	26年	トーハツ／Ｂ３	33PS

１－１９　主な機械器具保有状況

（平成３０年４月１日現在）

分類	機械器具名	保有数	分類	機械器具名	保有数
保護用	空気呼吸器	39基	救助用	エアーツール	1台
	耐熱服	4着		エンジンカッター	6台
	放射線防護服	2着		チェーンソー	11台
	陽圧式化学防護服	3着		ダイヤモンドチェーンソー	1台
測定器	可燃性ガス測定器	3台		ガス溶断器	1台
	有毒ガス測定器	3台		空気鋸	3台
	放射線測定器	5台		可搬ウィンチ	3台
	ポケット線量計	12台		送排風機	2台
	残留塩素測定器	3台		熱画像直視装置	1台
救助用	大型油圧切断機	1台		夜間暗視装置	1台
	大型油圧スプレッター	1台		救命索発射銃	1台
	油圧ジャッキ	3台	救急用	半自動式除細動器	4台
	マット型空気式ジャッキ	1式		AED	6台
	大型万能斧	4台		監視モニター	4台
	削岩機	2台		パルスオキシメーター	11台
	電気ハンマードリル	1台	その他	発電機	21台
	空気式救助マット	1台		アーク溶接機	2台
	ペダルカッター	1台		ジェットシューター	13台
	マンホール救助器具	1台			
	簡易画像探索機	1台			

１－２０　地区別消防水利

（基）（平成３０年４月１日現在）

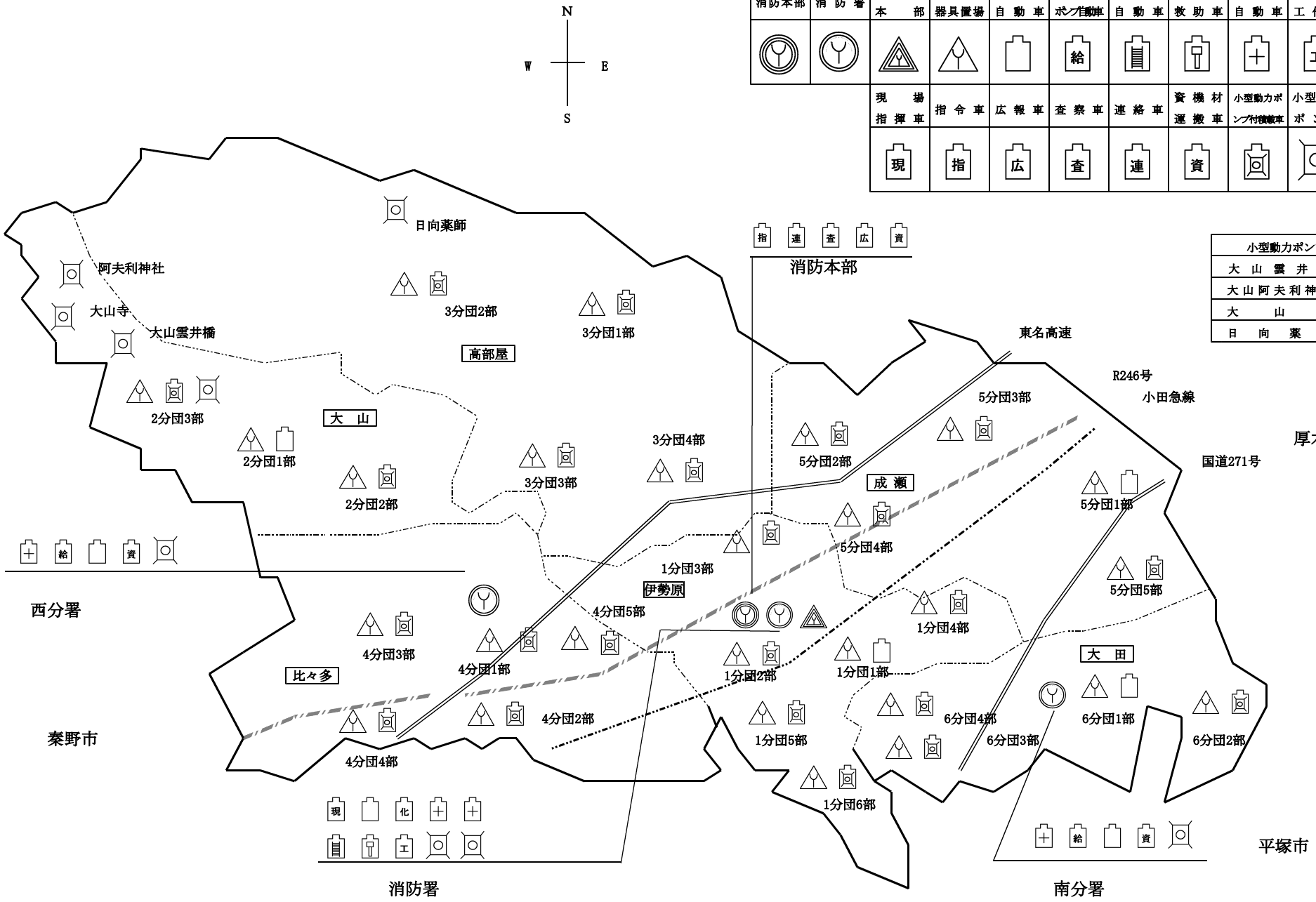
水利区分＼地区別			伊勢原	大山	高部屋	比々多	成瀬	大田	合計
消火栓			304	37	146	196	253	148	1,084
防火水槽	合計		164	10	74	106	143	77	574
	公設	小計	105	6	42	49	65	49	316
		100t 以上	5			1	2	1	9
		60t以上～100t未満	17	1	8	6	29	8	69
		40t以上～60t未満	56	5	20	28	28	31	168
		20t以上～40t未満	27		14	14	6	9	70
	私設	小計	59	4	32	57	78	28	258
		100t 以上	2	1	1		9		13
		60t以上～100t未満	11	1	11	12	29	6	70
		40t以上～60t未満	28		15	23	29	12	107
		20t以上～40t未満	18	2	5	22	11	10	68
その他	小計		10	2	9	17	18	2	58
	プール		7	1	2	3	10	1	24
	池			1	2		3		6
	その他（受水槽等）		3		5	14	5	1	28

１－２１　消防施設配置図

（平成３０年４月１日現在）

消防本部	消防署	消防団本部	消防団器具置場	ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	はしご自動車	13m高所救助車	救急自動車	救助工作車	化学車
					給				工	化
現場指揮車	指令車	広報車	査察車	連絡車	資機材運搬車	小型動力ポンプ付積載車	小型動力ポンプ			
現	指	広	査	連	資					

小型動力ポンプ特別配置	
大山雲井橋	１台
大山阿夫利神社	１台
大山寺	１台
日向薬師	１台



２　火災予防

2－1 防火対象物の状況

（棟）（平成30年3月31日現在）

業態別＼区分				法第17条 消防用設備等の設置対象物	法第8条 防火管理者 選任対象物
合　　計				3565	1042
1項	イ	劇場等		3	3
	ロ	公会堂又は集会場		60	51
2項	ロ	遊技場又はダンスホール		5	4
	ニ	カラオケボックス等		2	2
3項	イ	待合、料理店等		4	4
	ロ	飲食店		45	38
4項	百貨店、マーケット等			115	63
5項	イ	旅館、ホテル等		61	52
	ロ	寄宿舎、共同住宅等		1877	170
6項	イ	(1)	療養病床、一般病床で見守り体制なし	1	1
		(2)	特定診療科名を有し4人以上入院可	2	2
		(3)	病院((1)以外)、有床診療所((2)以外)	4	4
		(4)	無床診療所、無床助産所	29	1
	ロ	(1)	特別養護老人ホーム等	38	36
		(2)	救護施設		
		(3)	乳児院		
		(4)	障害児入所施設		
		(5)	障害者支援施設	4	3
	ハ	(1)	老人デイサービスセンター等	10	6
		(2)	更生施設		
		(3)	助産施設、保育所、	14	11
		(4)	児童発達支援センター等	2	1
		(5)	身体障害者福祉センター等	18	7
	ニ	幼稚園、特別支援学校		27	23
7項	小・中・高・大学、各種学校			65	64
8項	図書館、博物館、美術館等			2	1
10項	車両の停車場等			3	1
11項	神社、寺院、教会等			54	18
12項	工場、作業場			445	195
13項	イ	自動車車庫、駐車場		5	1
	ロ	飛行機等の格納庫		1	1
14項	倉庫			97	31
15項	前各号に該当しない事業場			221	87
16項	イ	複合用途（特定用途を含む）		269	144
	ロ	イ以外の複合用途		78	17
17項	文化財建造物			4	

２－２　建築物同意事務取扱状況

（件）（平成２９年度）

業態別＼区分			計	新築	増築	増改築	改築	大規模模様替なえ	用途変更
合計			315	312	2				1
１項	イ	劇場等							
	ロ	公会堂又は集会場							
２項	ロ	遊技場又はダンスホール							
	ニ	カラオケボックス等							
３項	イ	待合、料理店等							
	ロ	飲食店	1	1					
４項	百貨店、マーケット等		12	12					
５項	イ	旅館、ホテル等							
	ロ	寄宿舎、共同住宅等	34	34					
６項	イ	病院、診療所等	3	3					
	ロ	特別養護老人ホーム、介護老人ホーム等	2	1					1
	ハ	老人デイサービスセンター、保育所等	3	3					
	ニ	幼稚園又は特別支援学級							
７項	小・中・高・大学、各種学校等								
８項	図書館、博物館、美術館等		1	1					
10項	車両の停車場等								
11項	神社、寺院、教会等		3	3					
12項	イ	工場、作業場	5	4	1				
13項	イ	自動車車庫、駐車場							
	ロ	格納庫							
14項	倉庫		5	4	1				
15項	前各号に該当しない事業場		7	10					
16項	イ	複合用途(特定用途を含む)	4	4					
	ロ	イ以外の複合用途	1	1					
	専用住宅		223	233					
	その他		8	8					

2－3 火災予防査察状況

（平成29年度）

				査察実施棟数	勧告対象棟数	勧告数(件)	指導事項（件）						
							消防用設備	建物の構造	火気使用設備	電気使用設備	危険物関係	防火管理関係	その他
合計				389	295	696	315	10	2	2	13	318	36
1項	イ	劇場等		3	3	10	2			1		7	
	ロ	公会堂又は集会場		9	7	25	5					20	
2項	ロ	遊技場又はダンスホール		2	2	2						2	
	ニ	カラオケボックス等		1	1	1	1						
3項	イ	待合、料理店等		1	1	3	2					1	
	ロ	飲食店		31	28	80	26	8				45	1
4項	百貨店、マーケット等			82	73	216	87	2		1	2	116	8
5項	イ	旅館、ホテル等		6	6	16	6					10	
	ロ	寄宿舎、共同住宅等		1	1	2	1						1
6項	イ	(1)	療養病床、一般病床で見守り体制なし										
		(2)	特定診療科名を有し4人以上入院可										
		(3)	病院((1)以外)、有床診療所((2)以外)	1	1	5	3					2	
		(4)	無床診療所、無床助産所										
	ロ	(1)	特別養護老人ホーム等	6	5	10	1					6	3
		(2)	救護施設										
		(3)	乳児院										
		(4)	障害児入所施設										
		(5)	障害者支援施設	1									
	ハ	(1)	老人デイサービスセンター等	11	8	12	7				1	4	
		(2)	更生施設										
		(3)	助産施設、保育所、	2	1	1						1	
		(4)	児童発達支援センター等	3	1	1	1						
		(5)	身体障害者福祉センター等	10	7	16	8		1			6	1
	ニ	幼稚園、特別支援学校											
7項	小・中・高・大学、各種学校			21	18	16	8					7	1
8項	図書館、博物館、美術館等												
10項	車両の停車場等												
11項	神社、寺院、教会等			22	19	21	18					3	
12項	工場、作業場			55	18	24	11		1		7	2	3
13項	イ	自動車車庫、駐車場											
	ロ	飛行機等の格納庫											
14項	倉庫			10	9	24	17				2	4	1
15項	前各号に該当しない事業場			28	20	33	30					2	1
16項	イ	複合用途(特定用途を含む)		75	59	162	71				1	76	14
	ロ	イ以外の複合用途		8	7	16	10					4	2
17項	文化財建造物												

２－４　危険物施設査察状況

（件）（平成２９年度）

区分 / 製造所等の別			査察実施数	勧告のあった施設	勧告総数	勧告内容						
						位置	構造	設備	貯蔵取扱い方法	標識板	危険物保安監督者	その他
合計			51	24	41			3	3		2	33
製造所												
貯蔵所	屋内貯蔵所		10									
	屋外タンク貯蔵所		2									
	屋内タンク貯蔵所											
	地下タンク貯蔵所		9	8	9							9
	移動タンク貯蔵所		6									
	屋外貯蔵所											
取扱所	給油取扱所	営業用	12	10	26			2	3		2	19
		自家用	2	2	2							2
	一般取扱所		10	4	4			1				3
	販売取扱所											

２－５　危険物施設状況

（施設）（平成３０年３月３１日現在）

区分 / 製造所等の別			第一類	第二類	第三類	第四類	第五類	第六類	合計
合計			4			235			239
製造所			1			1			2
貯蔵所	屋内貯蔵所		2			77			79
	屋外タンク貯蔵所					23			23
	屋内タンク貯蔵所					2			2
	地下タンク貯蔵所					57			57
	移動タンク貯蔵所					6			6
	屋外貯蔵所					2			2
取扱所	給油取扱所	営業用				11			11
		自家用				12			12
	一般取扱所		1			43			44
	販売取扱所					1			1

２－６　中高層建物状況

（平成３０年３月３１日現在）

階 数	３階	４階	５階	６階	７階	８階	９階	10階以上	合　計
棟 数	501棟	181棟	153棟	31棟	44棟	10棟	8棟	18棟	946棟

２－７　防火教育等実施状況

（平成２９年度）

区　分	実　施　数	参 加 人 員	内　　容
防 火 教 育	7回	1,783人	防災講演、火災予防講演、防火映画等
消 防 訓 練	373回	34,206人	市内防火対象物からの消防訓練実施結果報告数

２－８　市コミュニティ防災センター利用状況

訓練研修		見　　学		そ の 他		合　　計	
50件	1,227人	7件	509人	42件	1,484人	99件	3,220人

２－９　主な届出状況

（件）

届出区分	平成２９年度	平成２８年度	平成２７年度
消防用設備等着工届出書	114	114	54
消防用設備等設置届出書	284	242	181
消防用設備等点検結果報告書(注)	814	669	725
防火対象物使用開始届出書	75	75	46
防火管理者選任(解任)届出書	185	149	156
防災管理者選任(解任)届出書	2	2	2
消防計画届出書	215	186	177
自衛消防組織設置（変更）届出書	18	6	9
少量危険物貯蔵取扱届出書	13	11	7
少量危険物貯蔵取扱廃止届出書	5	6	19
ボイラー設置届出書	7	6	14
変電設備設置届出書	12	19	10
圧縮アセチレンガス等届出書	12	12	22
火災とまぎらわしい行為の届出書	138	156	162
煙火打ち上げ届出書	10	11	9
道路工事届出書	160	166	174
露店等の開設届出書	27	27	33
り災証明書	14	14	13
禁止行為解除申請書	12	21	16
保安監督者選任届出書	28	30	29
指定可燃物貯蔵届出書	2	4	1
設置者変更届出書	23	27	21
予防規程認可申請書	11	4	2
軽微な変更届出書	31	17	23
合計	2,212	1,974	1,905

（注）　消防用設備等点検結果報告書の件数は事業所数

２－１０　危険物設置関係申請処理状況

（件）（平成２９年度）

製造所等の別／申請別	製造所	貯蔵所							取扱所			合計
		屋内貯蔵所	屋外貯蔵タンク所	屋内貯蔵タンク所	地下貯蔵タンク所	簡易貯蔵タンク所	移動貯蔵タンク所	屋外貯蔵所	給油取扱所	一般取扱所	販売取扱所	
設置許可												
変更許可							1		1	17		19
種類・数量変更		4	1							1		6
除外・取止												
仮使用									1	18		19
完成検査					4		1			18		23
タンク検査	水張検査10　水圧検査1											

３　火災と気象

３－１　火災概要

種別＼年中	平成２９年中	平成２８年中	平成２７年中
火災発生件数	33件	24件	28件
建物焼損面積	465㎡	556㎡	307㎡
林野焼損面積			
建物焼損棟数	18棟	22棟	17棟
損害見積額	35,037千円	74,170千円	34,598千円
り災世帯数	10世帯	15世帯	6世帯
死者数			
負傷者数	3人	11人	6人
市民１人当たりの損害見積額	342円	728円	341円
火災１件当たりの損害見積額	1,062千円	3,090千円	1,236千円

３－２　火災件数推移

（件）

種別＼年中	平成２９年中	平成２８年中	平成２７年中
建物火災	16	18	14
車両火災	2	3	4
林野火災			
その他の火災	15	3	10
合計	33	24	28

３－３　原因別火災発生件数

（件）

原因別＼年別	平成２９年中	平成２８年中	平成２７年中
たばこ	5	1	2
たき火	5	1	2
火遊び			
こんろ	3	4	
放火			6
風呂かまど			
ストーブ			1
放火の疑い	1		
マッチ・ライター		1	
煙突・煙道			
電気関係	3	2	1
その他	4	9	9
不明	12	6	7
合計	33	24	28

３－４　地区別火災件数

（件）

年別＼地区別	伊勢原	大山	高部屋	比々多	成瀬	大田	合計
平成２９年中	5	2	6	11	8	1	33
平成２８年中	6		9	3	4	2	24
平成２７年中	7	3	7	3	5	3	28

３－５　時間別火災件数

（件）

時間別＼年別	合計	0時～1時	1時～2時	2時～3時	3時～4時	4時～5時	5時～6時	6時～7時	7時～8時	8時～9時	9時～10時	10時～11時	11時～12時	12時～13時	13時～14時	14時～15時	15時～16時	16時～17時	17時～18時	18時～19時	19時～20時	20時～21時	21時～22時	22時～23時	23時～24時	不明
平成２９年中	33	1	1	2					1		1	4	3	2		2	2	1	3	2		2		1	1	4
平成２８年中	24	3									2	3	1	1	1	1	2	2	1	4				1		2
平成２７年中	28		1			1				1	1		3	3	4	1	3	3	1		2			2	1	1

３－６　月別火災件数

（件）

月別 / 年別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成２９年中	5	4	1	4	4	1	1	4	1		5	3	33
平成２８年中	2	1	3	4	2	1	1	2	1	2	3	2	24
平成２７年中	2	2	2	3	3	3	1	2	3	5	1	1	28

３－７　隣接都市との火災件数比較

（平成３０年４月１日現在）

区分 / 都市名	面積（k㎡）	人口（人）	世帯数（世帯）	火災件数 平成２９年中（件）	火災件数 平成２８年中（件）	火災件数 平成２７年中（件）
伊勢原市	55.56	102,416	44,809	33	24	28
平塚市	67.88	258,033	110,064	74	50	63
厚木市	93.84	225,489	98,287	59	68	76
秦野市	103.76	165,726	70,830	44	34	47

３－８　消防相互応援状況

（件）（平成２９年中）

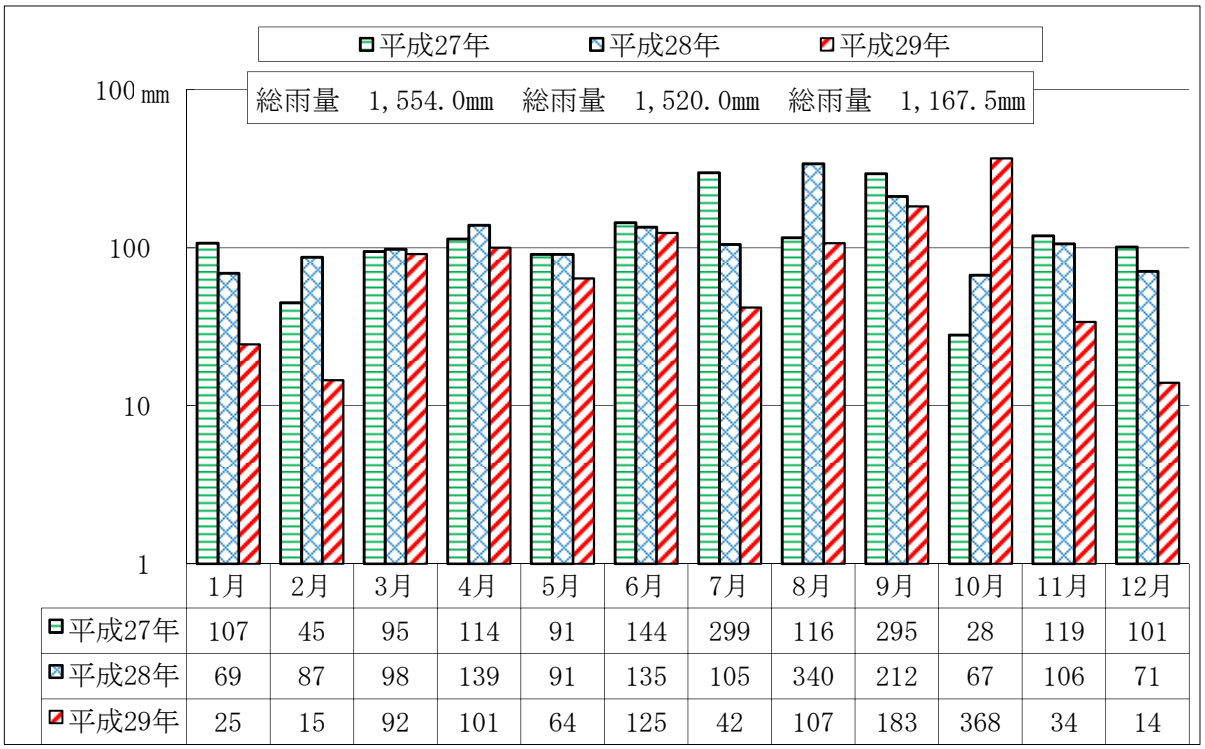
都市名 / 種別	区分	火災出動	救急出動	救助出動	
平塚市	応援	1			1
	受援		1		1
厚木市	応援	3			3
	受援	1	5		6
秦野市	応援				
	受援	4			4
合計	応援	4			4
	受援	5	6		11

３－９　気象状況

（平成29年中）

区分＼月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均 (年総雨量)
気温	最高	20.4	19.7	17.2	26.1	28.9	31.7	33.8	35.6	34.6	29.3	23.5	17.6	26.5
(℃)	平均	6.0	6.6	8.0	14.6	19.6	21.6	27.0	26.5	22.8	17.3	12.3	6.6	15.7
湿度	最低	14.2	15.1	24.7	16.2	27.0	19.0	55.5	51.5	44.3	31.2	29.8	18.2	28.9
(%)	平均	60.9	60.5	70.7	71.5	77.3	79.2	83.6	88.1	84.1	85.4	76.0	68.4	75.5
風速	最大	21.2	21.2	15.9	16.2	14.6	18.6	15.4	16.6	21.2	23.2	19.4	14.6	18.2
(m/s)	平均	2.1	2.1	2.2	2.7	2.2	2.3	2.4	2.1	2.4	3.0	1.9	1.8	2.3
気圧	最低	1009.5	1008.5	1008.8	1007.4	1007.1	1003.2	1003.9	1002.4	1006.2	1012.7	1011.9	1010.7	1007.7
(hpa)	平均	1014.7	1013.7	1014.0	1012.4	1012.0	1008.0	1008.6	1007.1	1011.0	1017.6	1016.9	1015.9	1012.7
雨量	本署	24.5	14.5	91.5	100.5	64.0	124.5	42.0	107.0	183.0	368.0	34.0	14.0 総雨量	97.3 1,167.5
(mm)	大山	46.5	15.5	98.0	114.5	59.0	104.5	41.5	154.5	215.5	475.5	34.5	14.5 総雨量	114.5 1,374.0
	成瀬中	26.5	7.0	76.0	108.0	66.5	144.5	58.0	139.5	218.0	410.5	37.0	13.5 総雨量	108.8 1,305.0

３－１０　降雨量前年度との比較（本署）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成27年	107	45	95	114	91	144	299	116	295	28	119	101
平成28年	69	87	98	139	91	135	105	340	212	67	106	71
平成29年	25	15	92	101	64	125	42	107	183	368	34	14

３－１１　年間風向割合

（平成29年中）

風向別																
北	北北東	北東	東北東	東	東南東	南東	南南東	南	南南西	南西	西南西	西	西北西	北西	北北西	静穏
6.3	21.1	9.4	2.3	1.7	1.2	1.3	2.9	5.9	11.4	6.1	2.5	0.7	1	6	9	11.2

（ 計 ）　100 ％

３－１２　気象観測器具現有数

（台）

観測器具名	数量	観測器具名	数量
気　圧　計	1	湿　度　計	1
風　向　計	1	温　度　計	1
風　速　計	1	百　葉　箱	1
雨　量　計	4		

３－１３　天候月別日数

（日）（平成29年中）

天候＼月	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
合計	365	31	28	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31
晴	183	25	21	12	14	17	12	15	6	8	11	18	24
曇	143	5	4	15	13	12	12	15	21	18	10	11	7
雨	39	1	3	4	3	2	6	1	4	4	10	1	
雪													

３－１４　通信機器等配置表

区分	無線種別	配置先	無線呼称名	配置数
本部	基地局	消防本部	しょうぼう いせはら	1基
	防災行政用無線	消防本部	ぼうさい いせはら	1基
	移動局	指令車	いせはら しれい１	1基
	移動局	連絡車	いせはら れんらく１	1基
	移動局	防災資機材運搬車	いせはら さぎょう１	1基
	移動局	査察車	いせはら ささつ１	1基
	移動局	広報車	いせはら こうほう１	1基
本署	移動局	消防署	いせはら しき２	1基
	移動局	消防署	いせはら しき３	1基
	移動局	消防署	いせはら しき４	1基
	移動局	現場指揮車	いせはら しき１	1基
	移動局	消防ポンプ自動車	いせはら ぽんぷ１	1基
	移動局	化学消防ポンプ自動車	いせはら かがく１	1基
	移動局	救助工作車	いせはら きゅうじょ１	1基
	移動局	はしご付消防自動車（30M級）	いせはら はしご１	1基
	移動局	高所救助車（13M級）	いせはら はしご２	1基
	移動局	救急自動車	いせはら きゅうきゅう１	1基
	移動局	救急自動車	いせはら きゅうきゅう２	1基
	携帯局	各隊で所持		7基
	携帯局（署活系）	各隊で所持		14基
	移動局(防災相互波)	消防署		1基
	携帯局(防災相互波)	各隊で所持		3基
南分署	移動局	南分署	いせはら みなみ１	1基
	移動局	水槽付消防ポンプ自動車	いせはら みなみたんく１	1基
	移動局	消防ポンプ自動車	いせはら みなみぽんぷ１	1基
	移動局	救急自動車	いせはら みなみきゅうきゅう１	1基
	移動局	防災資機材運搬車	いせはら みなみさぎょう１	1基
	携帯局	消防隊で所持		1基
	携帯局（署活系）	各隊で所持		5基
西分署	移動局	西分署	いせはら にし１	1基
	移動局	水槽付消防ポンプ自動車	いせはら にしたんく１	1基
	移動局	消防ポンプ自動車	いせはら にしぽんぷ１	1基
	移動局	救急自動車	いせはら にしきゅうきゅう１	1基
	移動局	防災資機材運搬車	いせはら にしさぎょう１	1基
	携帯局	消防隊で所持		1基
	携帯局（署活系）	各隊で所持		5基
消防団	携帯局（署活系）	本団、各班長以上で所持		69基
	受令機	待機室配置		27基
	受令機	各部車両配置		27基

３－１５　１１９番受信状況

（件）

種別＼年別	平成29年中	平成28年中	平成27年中
火災	48	34	38
救急	4,117	4,104	4,656
警戒	46	41	64
救助	168	126	65
調査	79	85	88
その他	2,642	2,948	2,512
合計	7,100	7,338	7,423

３－１６　加入電話病院照会件数

（件）

種別＼年別	平成29年中	平成28年中	平成27年中
内科	362	397	378
外科	309	333	333
小児科	552	748	680
眼科	130	105	139
歯科	30	31	40
耳鼻咽喉科	167	143	172
その他	105	109	85
合計	1,655	1,866	1,827

３－１７　携帯電話等からの緊急通報件数

（件）

市別＼年別	平成29年中	平成28年中	平成27年中
伊勢原市	2,833	2,892	2,630
横浜市	2	6	2
川崎市		1	1
平塚市	49	59	50
厚木市	44	64	46
秦野市	24	11	19
ＩＰ電話	1,665	1,556	1,577
合計	4,617	4,589	4,325

４　救助と救急

４－１　救急業務の推移

事故別／年中別		合計	救急事故種別										
			火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
出場件数(件)	平成29年中	4,745	20			387	29	53	742	13	46	3,220	235
	平成28年中	4,712	23	1	1	400	31	39	723	29	39	3,198	228
	平成27年中	4,678	16			421	38	54	718	21	38	3,158	214
搬送件数(件)	平成29年中	4,409	3			361	29	53	694	13	34	2,997	225
	平成28年中	4,386	7	1	1	376	31	39	684	22	27	2,987	211
	平成27年中	4,375	4			396	37	52	680	21	25	2,961	199
搬送人員(人)	平成29年中	4,441	3			386	30	53	695	13	34	3,002	225
	平成28年中	4,425	10	1	1	406	31	39	685	22	27	2,992	211
	平成27年中	4,420	6			434	37	52	681	22	25	2,964	199

４－２　搬送先別搬送人員

（人）

区分	平成２９年中	平成２８年中	平成２７年中
東海大学病院	1,637	1,570	1,614
伊勢原協同病院	2,131	1,951	1,744
堀江医院	16	270	426
休日夜間診療所	5	2	3
その他	15	16	21
市外医療機関	637	616	612
合計	4,441	4,425	4,420

４－３　時間別救急出動件数

（件）

時間別／年中別	0時～2時	2時～4時	4時～6時	6時～8時	8時～10時	10時～12時	12時～14時	14時～16時	16時～18時	18時～20時	20時～22時	22時～24時
平成２９年中	222	174	195	341	530	580	475	498	504	491	422	313
平成２８年中	217	193	190	370	531	520	554	443	529	469	389	307
平成２７年中	203	168	201	353	545	522	502	463	504	503	399	315

４－４　事故種別、年令区分別、傷病程度別、搬送人員調

（人）（平成２９年中）

年令区分	事故種別／傷病程度	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
新生児	死亡												
	重症												
	中等症											14	14
	軽症							1			1	2	4
	小計							1			1	16	18
乳幼児	死亡										1		1
	重症				1						1	5	7
	中等症				1			9			57	8	75
	軽症				5			50			102	2	159
	小計				7			59			161	15	242
少年	死亡												
	重症										1		1
	中等症				12		8	14		2	18	2	56
	軽症				32		21	25			50	1	129
	小計				44		29	39		2	69	3	186
成人	死亡									4	4		8
	重症				4	2		1		4	42	24	77
	中等症	1			69	7	5	42	2	17	397	50	590
	軽症				187	11	15	81	6	4	443	5	752
	小計	1			260	20	20	124	8	29	886	79	1,427
高齢者	死亡				1			5		1	41		48
	重症	1			4	2		21			206	49	283
	中等症	1			19	5	1	183	2	1	990	53	1,255
	軽症				51	3	3	263	3	1	648	10	982
	小計	2			75	10	4	472	5	3	1,885	112	2,568
合計	死亡				1			5		5	46		57
	重症	1			9	4		22		4	250	78	368
	中等症	2			101	12	14	248	4	20	1,462	127	1,990
	軽症				275	14	39	420	9	5	1,244	20	2,026
	合計	3			386	30	53	695	13	34	3,002	225	4,441

４－５　主要道路別交通事故救急件数

（件）（平成２９年中）

国道246号線	県道平塚／伊勢原線	県道伊勢原／横浜線	県道伊勢原／藤沢線	国道271号線側道	県道相模原／大磯線	その他の道路	合　計
96	17	12	20	11	12	219	387

４－６　救急患者居住地調

（人）（平成２９年中）

市内居住者	市外居住者	そ　の　他	合　　計
3,735	698	8	4,441

４－７　覚知別救急出動件数

（件）（平成２９年中）

火災報知専用電話（119番）	携帯電話（119番）	加入電話	駆け込み	その他	合　　計
2,547	1,817	306	11	64	4,745

４－８　地区別救急件数

（件）（平成２９年中）

伊勢原	大　山	高部屋	比々多	成　瀬	大　田	その他	合　計
1,927	192(44)	537	613	1,044	431	1	4,745

大山の（　）内は山岳件数

４－９　救急支援（ＰＡ）出動件数

（件）（平成２９年中）

平成２９年中	平成２８年中	平成２７年中
549	584	564

４－１０　熱中症件数

（人）（平成２９年中）

傷病程度＼年　中	平成２９年中	平成２８年中	平成２７年中	合　　計
死　　亡				
重　　傷	3	1	3	7
中　等　症	6	15	21	42
軽　　症	13	13	19	45
合　　計	22	29	43	94

４－１１　応急処置の状況

（回）

項目		平成２９年中	平成２８年中	平成２７年中
特定行為	気管挿管	7	4	3
	食道閉鎖式エアウェイ	55	59	64
	輸液（心肺停止）	51	35	55
	輸液（心肺停止前）	7	6	9
	薬剤投与	51	37	49
	ブドウ糖投与	2	2	1
血糖値測定		8	8	9
除細動		12	10	16
心肺蘇生		96	85	100
経鼻エアウェイ		33	23	42
用手		119	114	106
在宅療法		8	5	
血圧測定		4,269	4,259	4,315
聴診器		3,566	3,559	3,003
血中酸素		4,370	4,328	4,392
心電図測定		2,885	2,779	2,606
止血		24	30	21
固定		558	591	570
人工呼吸		10	6	14
酸素吸入		950	942	952
保温		40	50	101
被覆		332	372	399
その他の処置		4,227	4,336	4,421
合計		21,680	21,640	21,248

４－１２　過去３年間の救助出動件数

（平成29年中）

区分＼事故種別		合計	火災		交通事故	水難事故	自然災害等風水害	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	破裂事故	その他の事故	
			建物	建物以外								山岳	その他
平成29年中	出動件数（件）	118	12	2	13	2		1	32			44	12
	活動件数（件）	74	2		4	2		1	18			41	6
	救助人員（人）	73			4	2		1	15			46	5
平成28年中	出動件数（件）	90	14	3	9	2		1	17	1		29	14
	活動件数（件）	55	4		5	2			7	1		28	8
	救助人員（人）	52			5	2			6	1		31	7
平成27年中	出動件数（件）	82	10	4	12	1			13	1		29	12
	活動件数（件）	53	3		6	1			5			29	9
	救助人員（人）	50			7	1			5			28	9

５　消防団

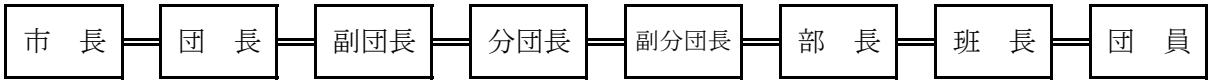
５－１　歴代消防団長

歴代	氏　　名	在　職　期　間	在職年数
初代	北　村　駒　治	昭和29年12月１日 ～ 昭和33年12月13日	4年
2代	舞　出　秀　雄	昭和33年12月14日 ～ 昭和35年12月14日	2年
3代	鈴　木　宗　太　郎	昭和35年12月15日 ～ 昭和37年12月14日	2年
4代	山　本　益　治	昭和37年12月15日 ～ 昭和44年３月31日	6年3か月
5代	高　崎　元　治	昭和44年４月１日 ～ 昭和51年３月31日	7年
6代	小　泉　留　吉	昭和51年４月１日 ～ 昭和54年３月31日	3年
7代	中　村　　稔	昭和54年４月１日 ～ 昭和57年３月31日	3年
8代	石　田　昭　治	昭和57年４月１日 ～ 昭和61年３月31日	4年
9代	鈴　木　美　男	昭和61年４月１日 ～ 平成２年３月31日	4年
10代	矢　作　英　保	平成２年４月１日 ～ 平成６年３月31日	4年
11代	磯　崎　敬　三	平成６年４月１日 ～ 平成16年３月31日	10年
12代	鳥　海　謙　一	平成16年４月１日 ～ 平成20年３月31日	4年
13代	下　山　　博	平成20年４月１日 ～ 平成24年３月31日	4年
14代	加　藤　重　治	平成24年４月１日 ～ 平成30年３月31日	6年

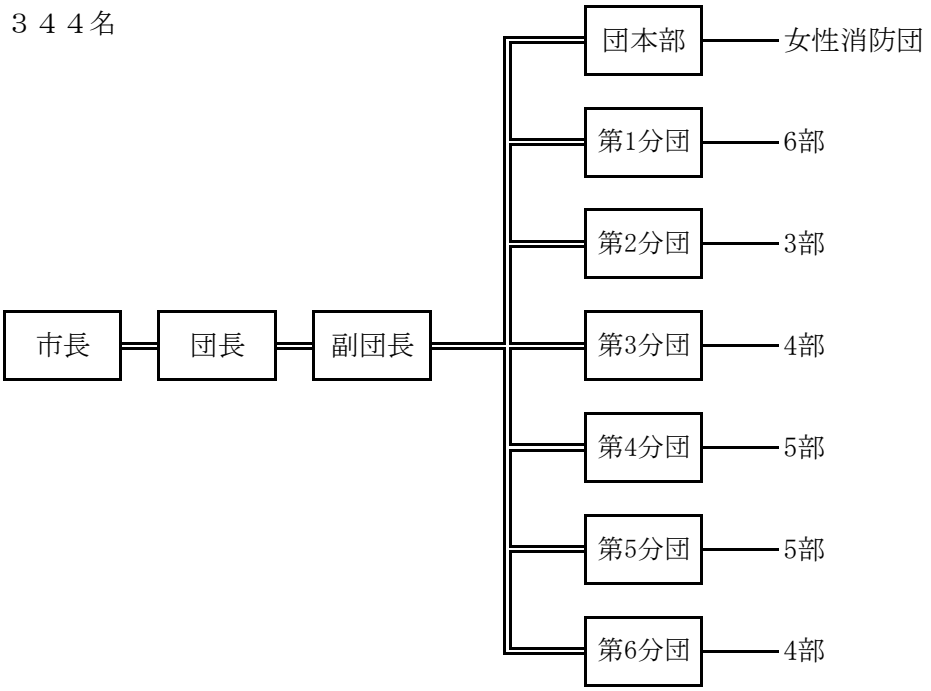
５－２　叙勲受章者

No.	受　章　者	階級	叙勲種類	受　章　日
1	北　村　駒　治	団　長	勲五等瑞宝章	昭和46年11月3日
2	陶　山　悌　造	副団長	勲六等瑞宝章	昭和47年４月29日
3	舞　出　秀　雄	団　長	勲六等瑞宝章	昭和51年11月3日
4	宮　崎　忠　夫	副団長	勲七等青色桐葉章	昭和52年４月29日
5	青　木　　善	副団長	勲七等青色桐葉章	昭和52年４月29日
6	杉　﨑　利　之	副団長	勲七等青色桐葉章	昭和58年11月3日
7	山　本　益　治	団　長	勲六等瑞宝章	昭和59年４月29日
8	青　柳　常　久	副団長	勲七等青色桐葉章	昭和62年４月29日
9	中　村　　稔	団　長	勲六等単光旭日章	平成６年４月29日
10	石　田　昭　治	団　長	勲六等単光旭日章	平成７年４月29日
11	城　所　勝　久	分団長	勲七等青色桐葉章	平成９年11月3日
12	越　地　常　久	分団長	勲七等青色桐葉章	平成12年４月29日
13	鈴　木　美　男	団　長	瑞宝単光章	平成16年11月3日
14	苅　籠　敏　夫	分団長	瑞宝単光章	平成24年11月3日
15	磯　崎　敬　三	団　長	瑞宝双光章	平成25年４月29日
16	鳥　海　謙　一	団　長	瑞宝単光章	平成28年５月16日

５－３　消防団の組織



□ 定員　３４６名
□ 実員　３４４名



５－４　消防団本団・分団別の現況

（平成３０年４月１日現在）

区分／分団別	消防団員数（人）								ポンプ台数（台）			
	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計	消防ポンプ自動車	積載小型動力ポンプ付車	小型動力ポンプ
合計	344	1	2	6	6	28	55	246	30	4	23	3
団本部	23	1	2			1	1	18				
第１分団	70			1	1	6	12	50	6	1	5	
第２分団	37			1	1	3	6	26	6	1	2	3
第３分団	47			1	1	4	8	33	4		4	
第４分団	59			1	1	5	10	42	5		5	
第５分団	59			1	1	5	10	42	5	1	4	
第６分団	49			1	1	4	8	35	4	1	3	

５－５　消防団員階級別年齢調

（平成３０年４月１日現在）

階級／年齢	合計（人）	比率（%）	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
合　　計	344	100	1	2	6	6	28	55	246
２０歳未満									
２０歳以上２５歳未満	3	1							3
２５歳以上３０歳未満	11	3							11
３０歳以上３５歳未満	42	12					1	2	39
３５歳以上４０歳未満	85	25					3	11	71
４０歳以上４５歳未満	86	25				2	9	22	53
４５歳以上５０歳未満	66	19			1	3	11	13	38
５０歳以上	51	15	1	2	5	1	4	7	31

５－６　消防団員階級別勤続年数調

（平成３０年４月１日現在）

階級／年齢	合計（人）	比率（%）	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
合　　計	344	100	1	2	6	6	28	55	246
５年未満	127	37							127
５年以上１０年未満	86	25					3	24	59
１０年以上１５年未満	79	23				3	20	21	35
１５年以上２０年未満	29	8		1	2	2	2	7	15
２０年以上２５年未満	19	6			3	1	3	3	9
２５年以上３０年未満	2	1			1				1
３０年以上	2	1	1	1					

５－７　消防団員費用弁償

（平成３０年４月１日現在）

出　動　区　分	支　　給　　額
水火災に従事した場合	２，７００円／１回
警戒・訓練等に従事した場合	２，０００円／１回

５－８　消防団員報酬額

（平成３０年４月１日現在）

階級	団　長	副団長	分団長	副分団長	部　長	班　長	団　員
報　酬 （年　額）	127,900円	98,500円	74,000円	57,600円	51,300円	44,900円	43,000円

５－９　消防団員出動状況

（平成２９年度）

種別／区分	水・火災	警戒・訓練等	合　　計
件　　数 ※	114件	500件	614件
延　人　数	629人	2,566人	3,195人

※ 件数は出動部隊２７部の延べ件数

５－１０　消防団車両一覧表

（平成３０年４月１日現在 ）

配置先		配 置 車 両	シャーシー	登録年月日	ポ　ン　プ	
					製 造 元	性　　能
第1分団	第1部	消防ポンプ自動車(CD-Ⅰ型)	日野　デュトロ	H15.11.11	野口ポンプ	Ａ２級
	第2部	小型動力ポンプ付積載車	日産　アトラス	H29.1.16	トーハツ	Ｂ３級
	第3部	小型動力ポンプ付積載車	日産　アトラス	H19.9.20	トーハツ	Ｂ３級
	第4部	小型動力ポンプ付積載車	日産　アトラス	H25.1.30	トーハツ	Ｂ３級
	第5部	小型動力ポンプ付積載車	三菱　キャンター	H28.2.3	トーハツ	Ｂ３級
	第6部	小型動力ポンプ付積載車	日産　アトラス	H15.2.4	トーハツ	Ｂ３級
第2分団	第1部	消防ポンプ自動車(CD-Ⅰ型)	日野　デュトロ	H27.1.29	長野ポンプ	Ａ２級
	第2部	小型動力ポンプ付積載車	日産　アトラス	H29.1.16	トーハツ	Ｂ３級
	第3部	小型動力ポンプ付積載車	ダイハツ デッキバン	H22.8.19	トーハツ	Ｂ３級
		小型動力ポンプ		S63.11.29	トーハツ	Ｂ３級
第3分団	第1部	小型動力ポンプ付積載車	日産　アトラス	H30.2.15	トーハツ	Ｂ２級
	第2部	小型動力ポンプ付積載車	日産　アトラス	H20.11.7	トーハツ	Ｂ３級
	第3部	小型動力ポンプ付積載車	日産　アトラス	H29.1.16	トーハツ	Ｂ３級
	第4部	小型動力ポンプ付積載車	日産　アトラス	H17.11.21	トーハツ	Ｂ３級
第4分団	第1部	小型動力ポンプ付積載車	日産　アトラス	H30.2.15	トーハツ	Ｂ２級
	第2部	小型動力ポンプ付積載車	日産　アトラス	H15.2.4	トーハツ	Ｂ３級
	第3部	小型動力ポンプ付積載車	日産　アトラス	H16.12.13	トーハツ	Ｂ３級
	第4部	小型動力ポンプ付積載車	日産　アトラス	H19.9.20	トーハツ	Ｂ３級
	第5部	小型動力ポンプ付積載車	日産　アトラス	H15.2.4	トーハツ	Ｂ３級

配置先		配 置 車 両	シャーシー	配置年月日	ポ ン プ	
					製 造 元	性 能
第5分団	第1部	消防ポンプ自動車 (BD-Ⅰ型)	トヨタ ランド クルーザー	H13.1.25	モリタ ポンプ	Ａ２級
	第2部	小型動力ポンプ付 積 載 車	日産 アトラス	H15.2.4	トーハツ	Ｂ３級
	第3部	小型動力ポンプ付 積 載 車	三菱 キャンター	H28.2.3	トーハツ	Ｂ３級
	第4部	小型動力ポンプ付 積 載 車	日産 アトラス	H20.11.7	トーハツ	Ｂ３級
	第5部	小型動力ポンプ付 積 載 車	日産 アトラス	H18.11.22	トーハツ	Ｂ３級
第6分団	第1部	消防ポンプ自動車 (BD-Ⅰ型)	トヨタ ランド クルーザー	H13.1.25	モリタ ポンプ	Ａ２級
	第2部	小型動力ポンプ付 積 載 車	日産 アトラス	H17.11.21	トーハツ	Ｂ３級
	第3部	小型動力ポンプ付 積 載 車	日産 アトラス	H15.2.4	トーハツ	Ｂ３級
	第4部	小型動力ポンプ付 積 載 車	日産 アトラス	H22.2.24	シバウラ ポンプ	Ｂ２級

□ 特別配置

配 置 先	配 置 機 械	経過年数 (年)	ポ ン プ	
			製 造 元	性 能
大山阿夫利神社	小 型 動 力 ポ ン プ	28	トーハツ	Ｂ３級
大 山 寺	小 型 動 力 ポ ン プ	26	トーハツ	Ｂ３級
日 向 薬 師	小 型 動 力 ポ ン プ	29	トーハツ	Ｂ３級
大 山 雲 井 橋	小 型 動 力 ポ ン プ	25	トーハツ	Ｂ３級

５－１１　消防団車庫の現況

（平成３０年４月１日現在）

分団名		所在地	敷地面積	延床面積	建設年月
第1分団	第１部	伊勢原３丁目４番１５号 〔市〕	102.48㎡	74.00㎡	平成５年３月
	第２部	板戸８１３番地 〔市〕	230.58㎡	94.64㎡	平成21年12月
	第３部	田中１１５０番地の１	26.00㎡	19.83㎡	昭和47年３月
	第４部	池端４５３番地 〔市〕	33.00㎡	51.88㎡	平成１年３月
	第５部	桜台１丁目３２番２６号 〔市〕	90.54㎡	79.38㎡	平成15年３月
	第６部	岡崎７０５６番地の１ 〔市〕	62.00㎡	51.43㎡	平成３年３月
第2分団	第１部	大山８９８番地 〔市〕	102.00㎡	39.55㎡	昭和52年３月
	第２部	子易１６４６番地の１	130.24㎡	52.00㎡	平成２年３月
	第３部	大山６２３番地の５(待機室) 〔市〕	100.00㎡	17.60㎡	昭和63年３月
		大山５４１番地の２(車庫) 〔市〕		13.90㎡	平成６年９月
第3分団	第１部	西富岡１０７５番地の１	139.37㎡	78.26㎡	平成７年３月
	第２部	日向２０５１番地の１	150.00㎡	60.01㎡	平成５年３月
	第３部	上粕屋１３４２番地	119.84㎡	66.30㎡	平成６年３月
	第４部	上粕屋５７４番地 〔市〕	68.00㎡	51.88㎡	平成１年３月
第4分団	第１部	神戸５９６番地の１ 〔市〕	42.83㎡	49.28㎡	昭和62年３月
	第２部	笠窪１１番地の１	95.90㎡	84.14㎡	平成30年３月
	第３部	三ノ宮１４９２番地の１	66.97㎡	51.77㎡	平成３年11月
	第４部	善波７３８番地	844.00㎡	16.80㎡	昭和50年10月
	第５部	白根３３５番地の１	66.35㎡	79.38㎡	平成17年３月
第5分団	第１部	東成瀬２９番地の２２ 〔市〕	100.11㎡	78.26㎡	平成９年３月
	第２部	東富岡３５５番地の１	77.00㎡	52.00㎡	平成２年３月
	第３部	高森７丁目８７２番地の１ 〔市〕	196.00㎡	64.80㎡	平成６年３月
	第４部	下糟屋２１６５番地の１〔市〕	135.90㎡	96.74㎡	平成25年３月
	第５部	下落合１６番地の１	32.00㎡	16.80㎡	昭和48年11月
第6分団	第１部	下谷９９番地の３ 〔市〕	102.00㎡	49.99㎡	昭和45年12月
	第２部	小稲葉２２８６番地の４	81.00㎡	33.90㎡	昭和46年10月
	第３部	下平間９３９番地	94.07㎡	41.40㎡	昭和55年12月
	第４部	沼目２丁目６１７番地	150.00㎡	47.36㎡	平成14年３月

※ 〔市〕は市有地

５－１２　神奈川県消防操法大会出場状況一覧表

開催回	年度	競技種別	出場分団	地区名	成績
第２０回	昭和４５年度	小型ポンプ操法	第６分団	大田	優秀賞
第２１回	昭和４６年度	ポンプ車操法	第１分団	伊勢原	優秀賞
第２２回	昭和４７年度	〃	第２分団	大山	優秀賞
第２３回	昭和４８年度	〃	第３分団	高部屋	最優秀賞
第２４回	昭和４９年度	〃	第４分団	比々多	優秀賞
第２５回	昭和５０年度	〃	第５分団	成瀬	優秀賞
第２６回	昭和５１年度	〃	第６分団	大田	優良賞
第２７回	昭和５２年度	〃	第１分団	伊勢原	優良賞
第２８回	昭和５３年度	〃	第２分団	大山	優秀賞
第２９回	昭和５４年度	〃	第３分団	高部屋	優良賞
第３０回	昭和５５年度	〃	第４分団	比々多	優秀賞
第３１回	昭和５６年度	〃	第５分団	成瀬	優秀賞
第３３回	昭和５８年度	小型ポンプ操法	第６分団	大田	優良賞
第３４回	昭和５９年度	ポンプ車操法	第１分団	伊勢原	優良賞
第３５回	昭和６１年度	〃	第２分団	大山	優良賞
第３６回	昭和６３年度	〃	第３分団	高部屋	優秀賞
第３７回	平成２年度	〃	第４分団	比々多	優秀賞
第３８回	平成４年度	〃	第５分団	成瀬	優秀賞
第３９回	平成６年度	〃	第６分団	大田	優秀賞
第４０回	平成８年度	〃	第１分団	伊勢原	優秀賞
第４１回	平成１０年度	〃	第２分団	大山	優秀賞
第４２回	平成１２年度	〃	第３分団	高部屋	優良賞
第４３回	平成１４年度	〃	第４分団	比々多	優良賞
第４４回	平成１６年度	〃	第５分団	成瀬	優良賞
第４５回	平成１８年度	〃	第６分団	大田	優秀賞
第４６回	平成２０年度	小型ポンプ操法	第１分団	伊勢原	優秀賞
第４７回	平成２２年度	ポンプ車操法	第２分団	大山	優良賞
第４８回	平成２４年度	小型ポンプ操法	第３分団	高部屋	優良賞
第４９回	平成２６年度	〃	第４分団	比々多	優良賞
第５０回	平成２８年度	〃	第５分団	成瀬	優良賞

平成３０年版 消防年報

平成３０年８月発行

編集・発行　伊勢原市消防本部消防総務課総務係
２５９－１１３１
神奈川県伊勢原市伊勢原３丁目３２番２０号
電　話　　０４６３－９５－２１１９（代表）
０４６３－９５－９１４３（直通）
ＦＡＸ　　０４６３－９１－４３２５
e-mailアドレス　　s-soumu@isehara-city.jp

（背表紙）

消防年報

平成三〇年版

伊勢原市消防本部